

石川県地震被害想定調査 概要版



目次

はじめに

1. 調査の概要

2. 地震動・液状化・崖崩れ等の予測

2-1. 地震動の予測

2-2. 液状化の予測

2-3. 崖崩れ等の予測

3. 建物・物的・人的被害予測

4. 社会基盤施設等の被害予測

5. 災害シナリオ

6. 県民の防災対策とその被害軽減効果

- ・ 建物耐震化率の向上
- ・ 家具固定率の向上
- ・ 感震ブレーカー設置率の向上
- ・ 家庭内備蓄の促進

【参考】 想定地震ごとの主な被害想定結果

被害想定調査の目的

- 国における最新の知見や近年の大規模地震から得られた教訓に基づき、耐震化の進展や人口等の社会条件の変化を踏まえ、県地震被害想定の見直しを行うことにより、県内全域で震災対策の強化を図る
- 防災対策を講じた場合の効果（被害軽減効果）を示すことにより、県民の防災対策の促進と防災意識の向上を図り、自助・共助の取り組みを推進する

前回調査との変更点

- 最新の科学的知見に基づき県内に被害を及ぼす断層帯を見直し
- 金沢市周辺の人口集中地区において谷や川筋などの軟弱地盤を区別するため50mメッシュの精緻な地盤モデルを作成するなど地形データを改善
- 想定シーンとして冬の夕刻に加え、冬5時、夏12時のほか、帰省客や観光客など人の分布が平常時と異なると考えられる正月及びGWを追加
- 他県や国の地震被害想定調査を参考に被害想定項目を充実

調査結果の留意点

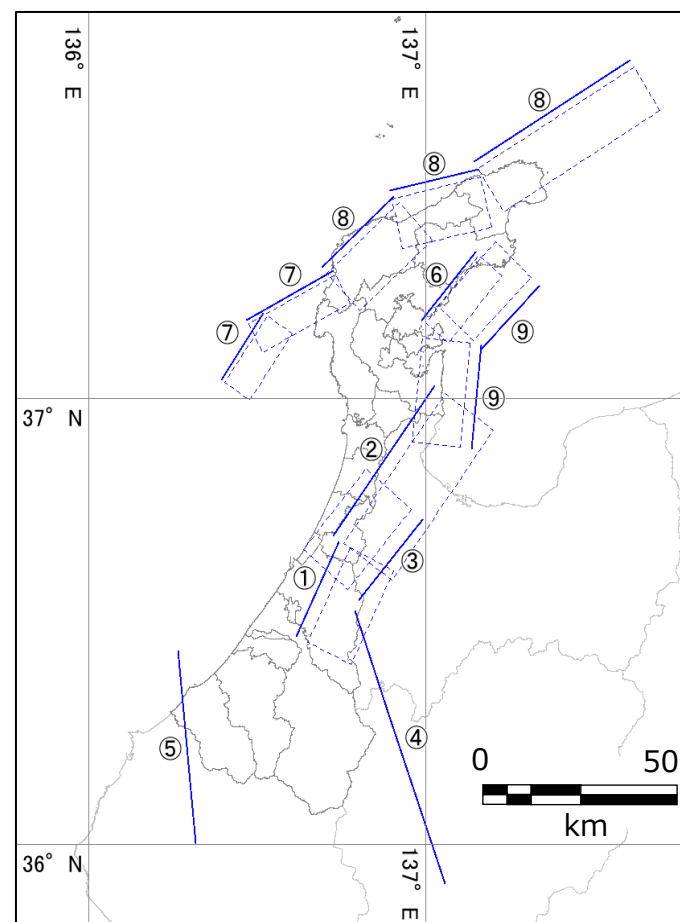
- 調査結果はあくまで予測（目安）であり、実際の発災時には地震動をはじめ被害の状況は想定と異なることも予想される
- 想定地震以外にも、県内に甚大な被害を及ぼす地震が発生する可能性がある
- 被害の予測にあたっては、過去国内で発生した大規模地震の被災事例に基づく経験式等を用いて被害等を予測しており、今後の研究成果の進展により予測手法の修正や新たな予測手法が出てくる場合がある
- 被害想定は、地震動、建物データ、予測手法など、様々な要素を合わせた結果であり、条件が変わると被害は変化する
- 今回の調査は、令和6年能登半島地震前の住民基本台帳等に基づき行うため、令和6年能登半島地震による被害が甚大な自治体については、今後の人口や建物の復旧状況を踏まえ、改めて調査を行う
- 津波被害については、令和6年能登半島地震による地形データの修正が示された後に調査を行う。なお、令和4年度に津波災害警戒区域を指定したほか、市町において、津波ハザードマップの作成に取り組んでいる

1. 調査の概要

想定地震

- 被害想定を行った断層帯は、本県および周辺で発生した地震被害や国における学術的知見や活断層の評価を踏まえ、**県内・隣県に位置する陸海域の9断層帯を選定**

被害想定を行った断層帯	地震規模 (Mj)	30年以内の 地震発生確率
① 森本・富樫断層帯	7.2	2～8%
② 邑知潟断層帯	7.6	2%
③ 砺波平野断層帯西部	7.2	ほぼ0～2%
④ 庄川断層帯	7.9	ほぼ0%
⑤ 福井平野東縁断層帯主部	7.6	ほぼ0～0.07%
⑥ 能登海岸活動セグメント	6.9	—
⑦ 門前断層帯	7.5	—
⑧ 能登半島北岸断層帯	8.1	—
⑨ 七尾湾東方断層帯	7.6	—



※⑥～⑨の30年以内の地震発生確率は、国において未評価（日本海側の海域活断層の長期評価－兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖／令和6年8月版）

1. 調査の概要

被害想定項目

※**朱書き**は、概要版に記載している項目

1. 建物被害(令和5年4月現在固定資産台帳をベース)

- 1.1 揺れによる建物被害
- 1.2 液状化による建物被害
- 1.3 急傾斜地崩壊による建物被害
- 1.4 地震火災による建物被害

2. 物的被害

- 2.1 ブロック塀の転倒
- 2.2 自動販売機等の転倒
- 2.3 屋外落下物
- 2.4 宅地の液状化被害

3. 人的被害(令和5年4月現在住民基本台帳をベース)

- 3.1 建物倒壊による人的被害
- 3.2 急傾斜地崩壊による人的被害
- 3.3 地震火災による人的被害
- 3.4 ブロック塀・屋外落下物等の転倒による人的被害
- 3.5 自動販売機等の転倒による人的被害
- 3.6 屋内収容物の移動・転倒・屋外落下物による人的被害
- 3.7 要救助者(自力脱出困難者)
- 3.8 災害関連死

4. ライフライン被害

- 4.1 上水道
- 4.2 下水道
- 4.3 都市ガス
- 4.4 LPガス
- 4.5 電力
- 4.6 通信施設(固定・携帯)

5. 交通施設被害

- 5.1 道路・橋梁
- 5.2 鉄道
- 5.3 港湾・漁港
- 5.4 空港

6. 生活機能支障

- 6.1 避難者(支援者)
- 6.2 災害時要支援者
- 6.3 帰宅困難者
- 6.4 飲食機能支障(食料・飲料水等の需要数)
- 6.5 医療機能支障
- 6.6 介護・福祉機能支障
- 6.7 住機能支障(仮設住宅需要数)
- 6.8 衛生機能支障(トイレ需要数)
- 6.9 災害廃棄物

7. その他の被害

- 7.1 エレベーターの停止
- 7.2 文化財
- 7.3 孤立集落
- 7.4 海岸施設
- 7.5 ため池
- 7.6 観光

8. 経済被害

- 8.1 直接経済被害(資産等の被害額)
- 8.2 半間接経済被害(生産低下等による被害額)
- 8.3 間接経済被害(交通寸断による被害額)

1. 調査の概要

想定範囲

県内全域

想定単位

250mメッシュ
(金沢市周辺の人口集中地区は50mメッシュ)

想定シーン（地震が発生する季節・時間帯・風速）

- ① 冬・朝 5 時
 - ・就寝中の被災者が多く圧死の危険性が高い
 - ・積雪による雪の重みにより倒壊家屋が増える可能性
- ② 夏・昼 1 2 時
 - ・外出者が多く自宅外で被災する危険性が高い
- ③ 冬・夕 1 8 時
 - ・火気使用が多く出火の危険性が高い
 - ・積雪による雪の重みにより倒壊家屋が増える可能性
- ④ 正月・夕 1 8 時
 - ・令和 6 年能登半島地震が発生したシーン
 - ・帰省者が多く平時よりも県内の滞在者が多い
 - ・積雪による雪の重みにより倒壊家屋が増える可能性
- ⑤ GW・昼 1 2 時
 - ・観光客が多く平時よりも県内の滞在者が多い

※シーンごとに風速の違いも計算（平均・強風）

2-1. 地震動の予測

○ 市町別の最大震度推計値

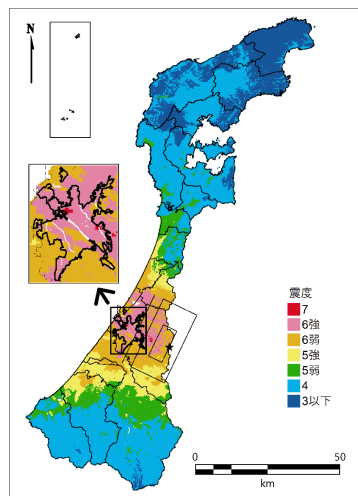
市町名	①森本・富樫断層帯	②呂知潟断層帯		③砺波平野断層帯西部	④庄川断層帯		⑤福井平野東縁断層帯主部		⑥能登海岸活動セグメント	⑦門前断層帯		⑧能登半島北岸断層帯		⑨七尾湾東方断層帯	
		北に震源	南に震源		南に震源	北に震源	南に震源	北に震源		東下部に震源	西下部に震源	南下部に震源	中央西下部に震源	南下部に震源	北下部に震源
金沢市	7	6 強	6 強	7	7	7	6 弱	6 弱	4	5 弱	5 弱	4	4	5 強	5 弱
七尾市	5 弱	7	7	5 強	5 弱	5 弱	5 弱	5 弱	7	6 弱	6 強	6 弱	6 弱	7	7
小松市	6 弱	5 強	5 強	5 強	6 強	6 弱	6 強	7	4	5 弱	5 弱	4	4	5 弱	5 弱
輪島市	5 弱	5 強	5 強	5 弱	5 弱	5 弱	5 弱	5 弱	6 強	7	7	7	7	6 強	6 強
珠洲市	4	5 弱	5 弱	4	5 弱	5 弱	4	4	6 弱	5 弱	5 弱	7	7	6 強	6 強
加賀市	5 強	5 弱	5 弱	5 弱	5 強	5 強	7	7	4	5 弱	4	4	4	4	4
羽咋市	5 強	6 強	6 強	6 弱	5 強	5 強	5 弱	5 弱	5 弱	6 弱	6 弱	5 強	5 弱	6 強	6 弱
かほく市	6 強	6 強	7	7	6 強	6 弱	5 弱	5 弱	4	5 強	5 強	5 弱	5 弱	5 強	5 強
白山市	6 強	5 強	5 強	6 弱	6 強	7	6 弱	6 弱	4	5 弱	5 弱	4	4	5 弱	5 弱
能美市	6 弱	5 強	5 強	5 強	6 弱	6 弱	6 強	6 強	4	5 弱	5 弱	4	4	5 弱	5 弱
野々市市	6 強	5 強	5 強	6 弱	6 弱	6 弱	5 強	5 強	3	4	4	4	4	4	4
川北町	6 弱	5 強	5 強	5 強	6 弱	6 弱	6 強	6 弱	4	4	5 弱	4	4	5 弱	4
津幡町	6 強	6 強	7	7	6 強	6 弱	5 弱	5 弱	4	5 強	5 弱	4	5 弱	5 強	5 強
内灘町	6 強	6 弱	6 強	7	6 強	6 弱	5 強	5 強	4	5 強	5 弱	4	4	5 強	5 弱
志賀町	5 弱	6 強	6 弱	5 強	5 強	5 強	5 弱	5 弱	5 強	7	7	6 弱	6 強	6 強	6 弱
宝達志水町	6 弱	6 強	7	7	6 弱	5 強	5 弱	5 弱	5 弱	5 強	5 強	5 弱	5 弱	6 弱	6 弱
中能登町	5 弱	7	6 強	6 弱	5 強	5 弱	4	4	5 弱	5 強	5 強	5 弱	5 強	6 強	6 強
穴水町	5 弱	6 弱	5 強	5 弱	5 弱	4	4	4	7	6 弱	6 強	7	7	7	7
能登町	4	5 強	5 強	5 弱	5 弱	4	4	4	7	5 強	5 強	7	7	7	7

※各地震のケース名は地震本部の公表資料による検討やレシピに則った震源モデル設定ケースをもとに、「○に震源」など県民に分かりやすいよう平易な表現に変更
 ※長い断層について、震源の不確実性を踏まえ複数の震源を設定したものについては代表的な2ケースを概要版に掲載

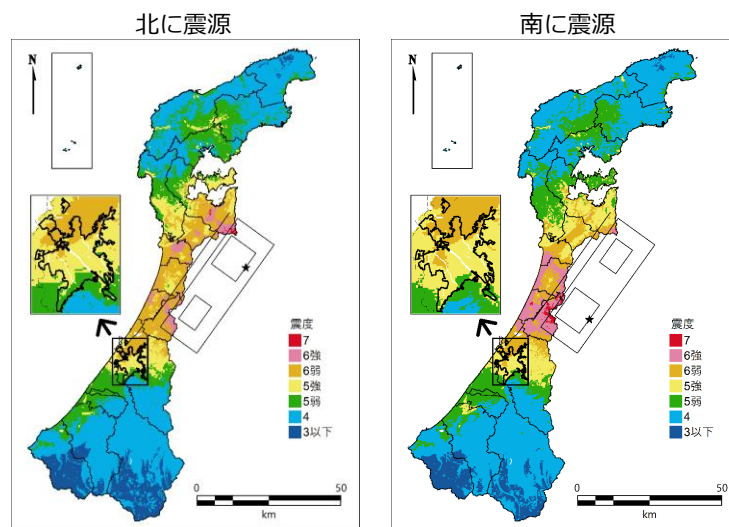
2-1. 地震動の予測

○ 対象断層の震度分布 (①～⑤)

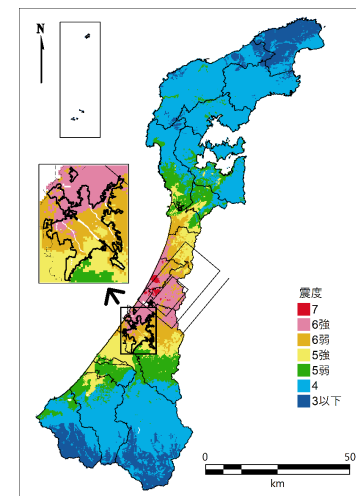
① 森本・富樫断層帯



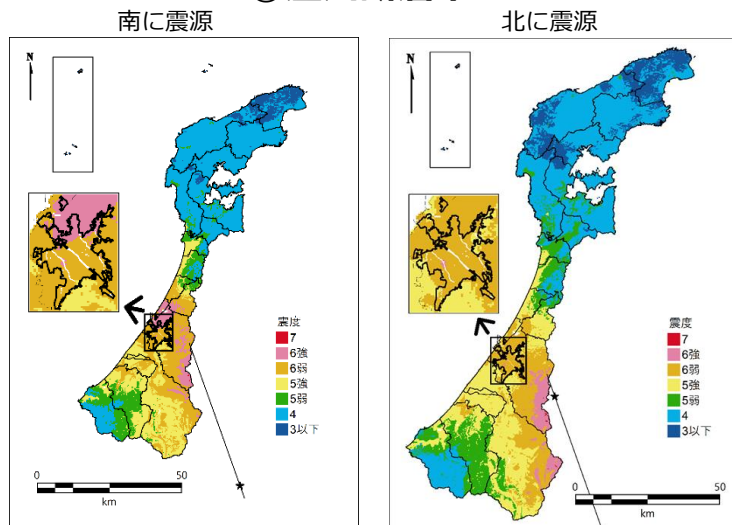
② 邑知潟断層帯



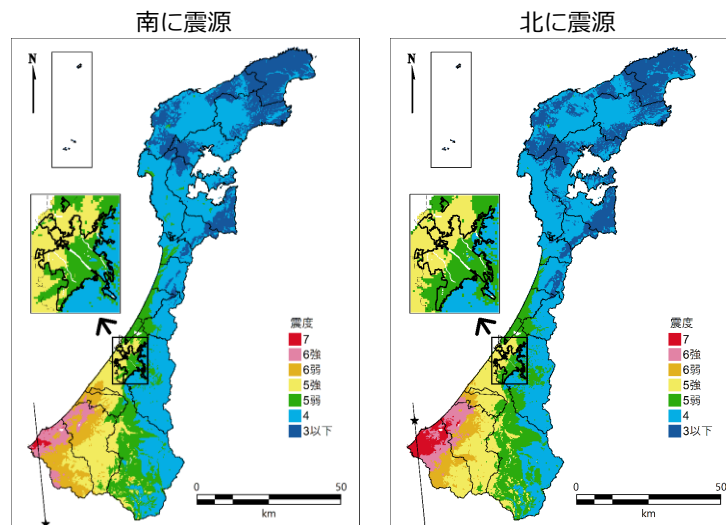
③ 砺波平野断層帯西部



④ 庄川断層帯



⑤ 福井平野東縁断層帯主部

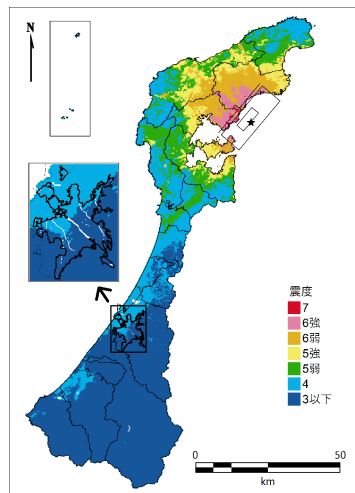


※長い断層帯については、震源の不確実性を踏まえ、地震被害が大きくなる箇所（震源：図中★・アスペリティ：図中□）の配置を変更した計算ケースを設定

2-1. 地震動の予測

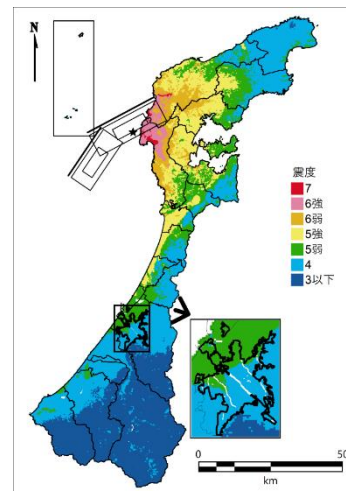
○ 対象断層の震度分布 (⑥～⑨)

⑥能登海岸活動セグメント

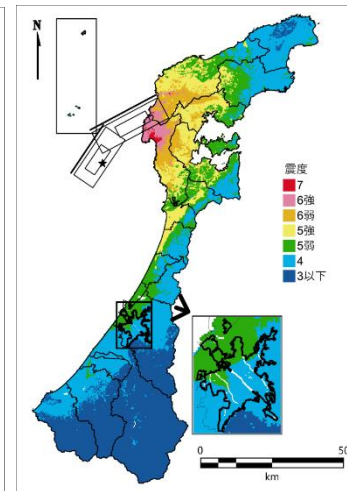


⑦門前断層帯

東下部に震源

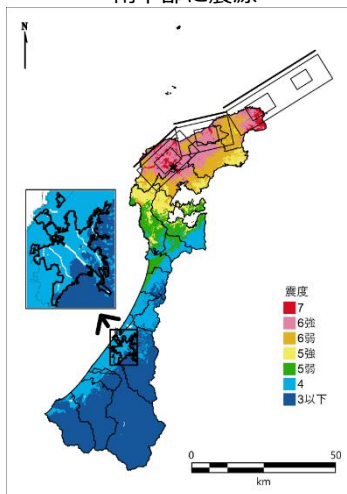


西下部に震源

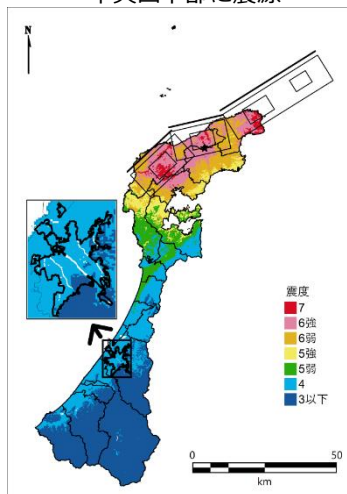


⑧能登半島北岸断層帯

南下部に震源

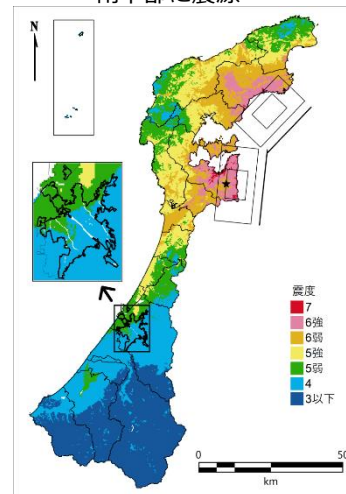


中央西部に震源

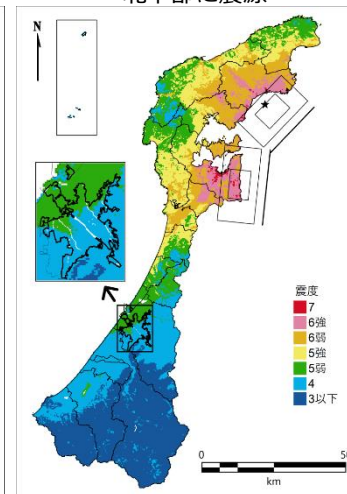


⑨七尾湾東方断層帯

南下部に震源



北下部に震源

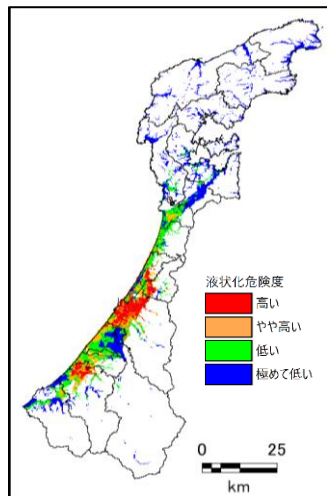


※長い断層帯については、震源の不確かさを踏まえ、地震被害が大きくなる箇所（震源：図中★・アスペリティ：図中□）の配置を変更した計算ケースを設定

2-2. 液状化の予測

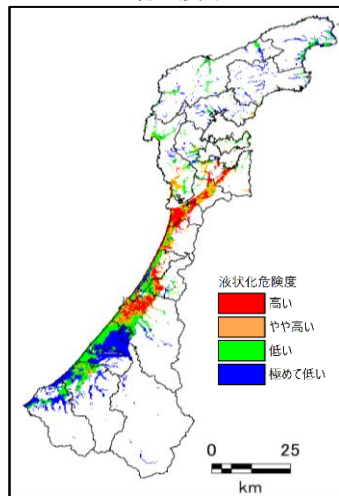
○ 対象断層の液状化危険度分布（①～⑤）

① 森本・富樫断層帯

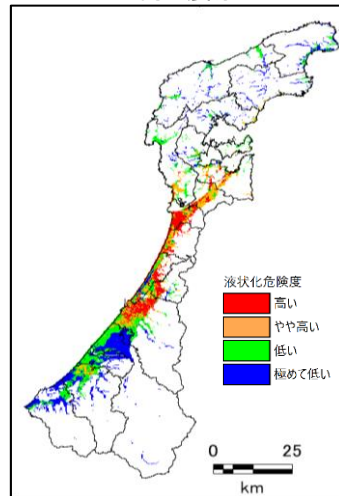


② 邑知潟断層帯

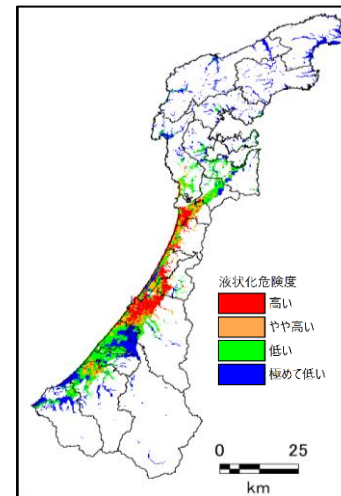
北に震源



南に震源

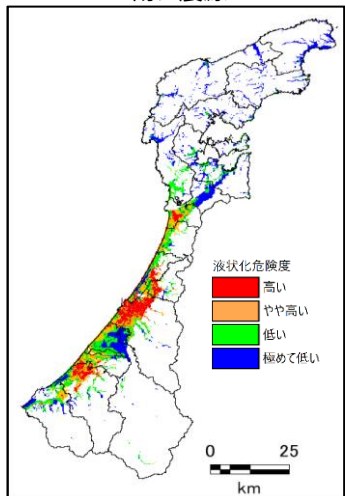


③ 砺波平野断層帯西部

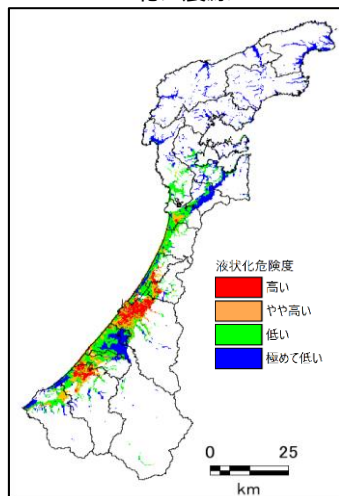


④ 庄川断層帯

南に震源

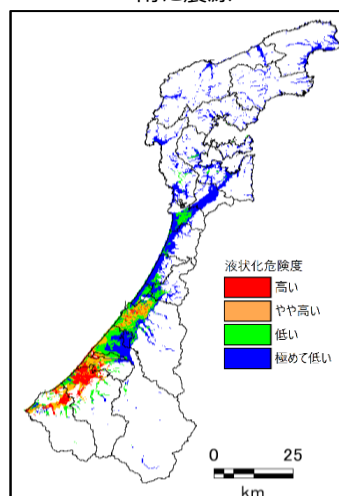


北に震源

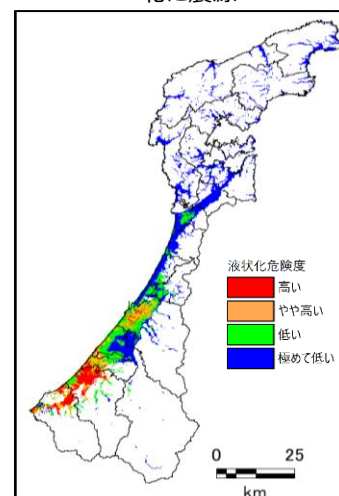


⑤ 福井平野東縁断層帯主部

南に震源



北に震源

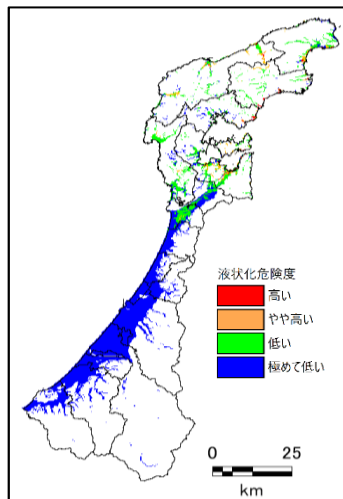


※長い断層帯については、震源の不確実性を踏まえ、地震被害が大きくなる箇所（震源・アスペリティ）の配置を変更した計算ケースを設定

2-2. 液状化の予測

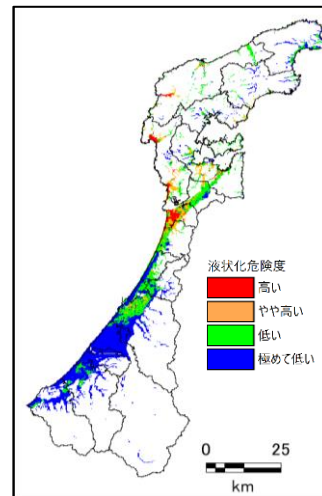
○ 対象断層の液状化危険度分布（⑥～⑨）

⑥能登海岸活動セグメント

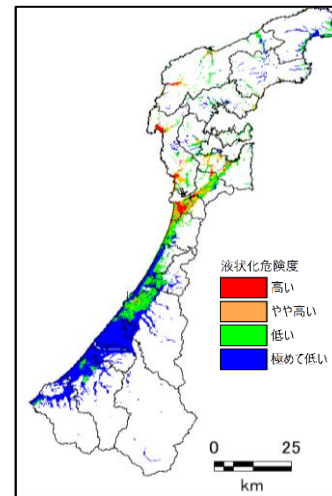


⑦門前断層帯

東下部に震源

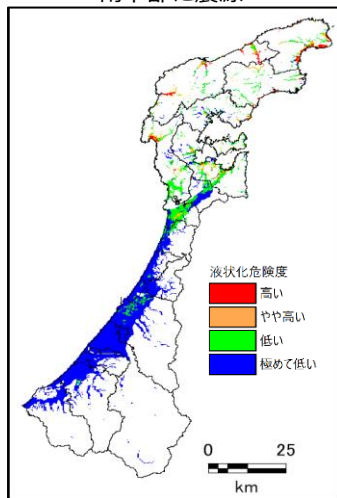


西下部に震源

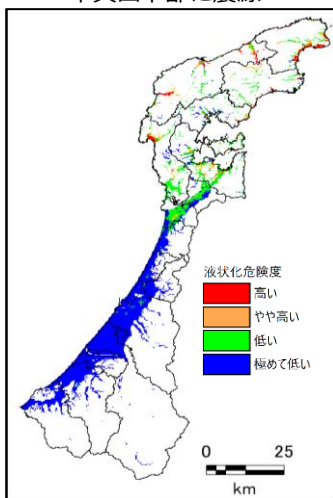


⑧能登半島北岸断層帯

南下部に震源

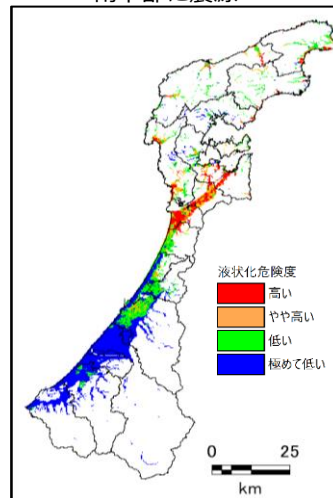


中央西下部に震源

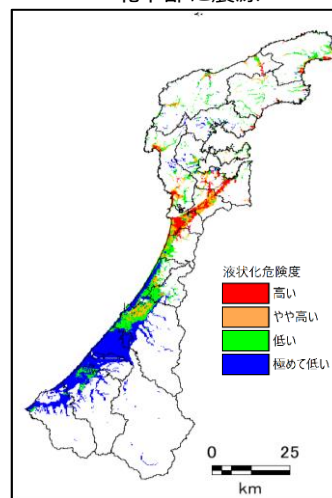


⑨七尾湾東方断層帯

南下部に震源



北下部に震源

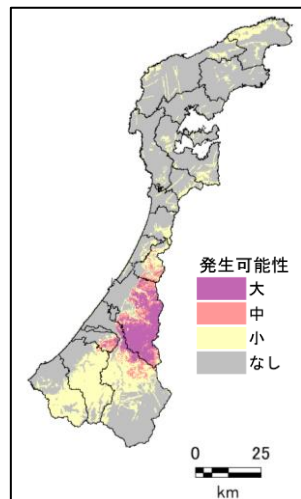


※長い断層帯については、震源の不確実性を踏まえ、地震被害が大きくなる箇所（震源・アスペリティ）の配置を変更した計算ケースを設定

2-3. 崖崩れ等の予測

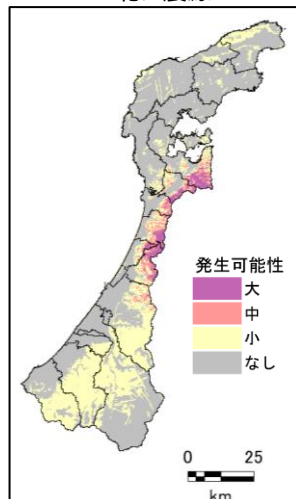
○ 対象断層の崖崩れ等の予測 (①～⑤)

① 森本・富樫断層帯

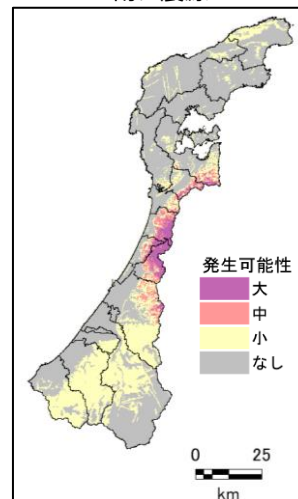


② 邑知潟断層帯

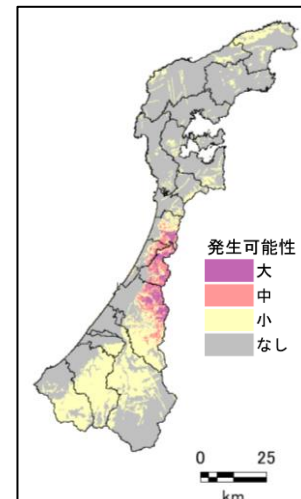
北に震源



南に震源

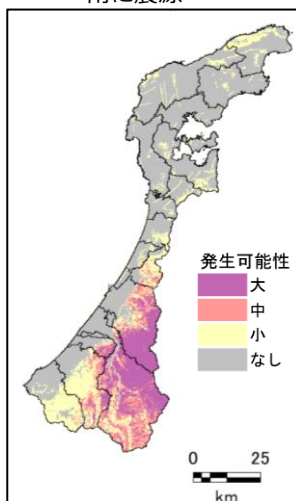


③ 砺波平野断層帯西部

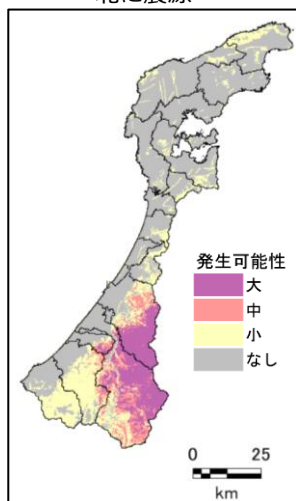


④ 庄川断層帯

南に震源

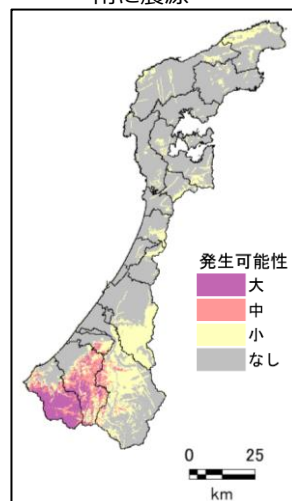


北に震源

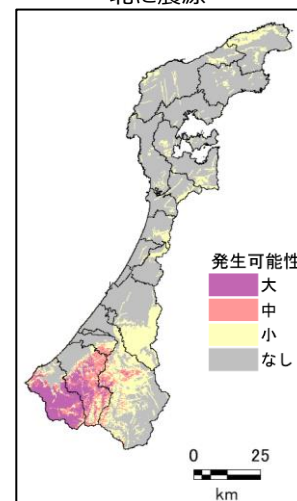


⑤ 福井平野東縁断層帯主部

南に震源



北に震源

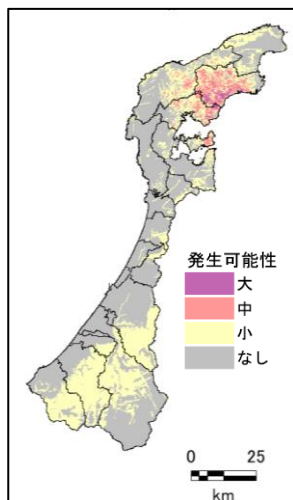


※長い断層帯については、震源の不確実性を踏まえ、地震被害が大きくなる箇所（震源・アスペリティ）の配置を変更した計算ケースを設定

2-3. 崖崩れ等の予測

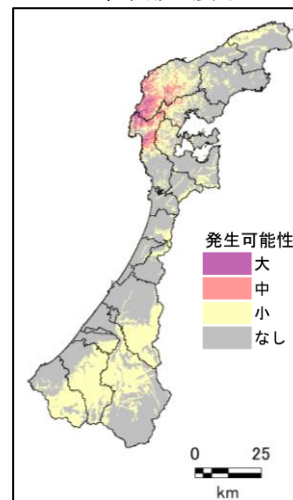
○ 対象断層の崖崩れ等の予測（⑥～⑨）

⑥能登海岸活動セグメント

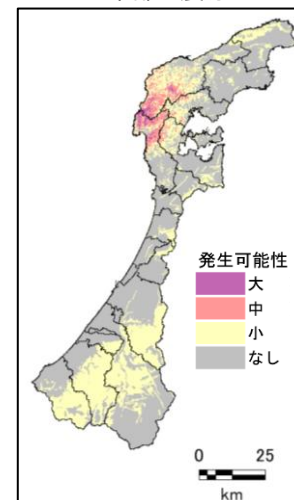


⑦門前断層帯

東下部に震源

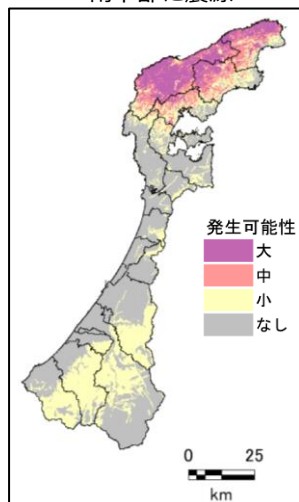


西下部に震源

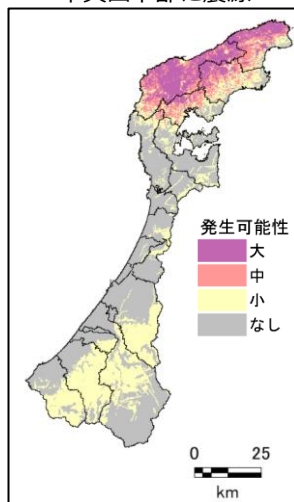


⑧能登半島北岸断層帯

南下部に震源

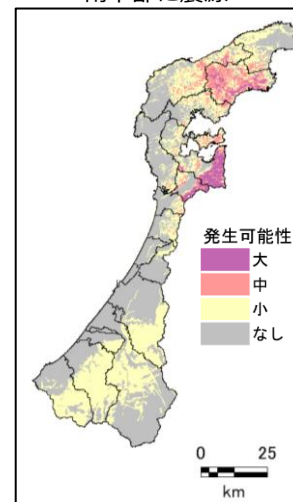


中央西下部に震源

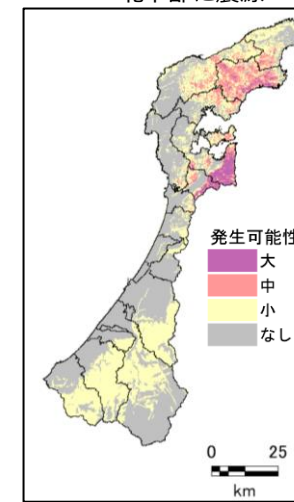


⑨七尾湾東方断層帯

南下部に震源



北下部に震源



※長い断層帯については、震源の不確実性を踏まえ、地震被害が大きくなる箇所（震源・アスペリティ）の配置を変更した計算ケースを設定

3. 建物・物的・人的被害予測 及び 4. 社会基盤施設等の被害予測

○ 被害想定 of 主な項目の被害予測結果

<建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載>

想定項目（抜粋）		単位	①森本・富樫断層帯	②邑知潟断層帯	③砺波平野断層帯	④庄川断層帯	⑤福井平野東縁断層帯	⑥能登海岸活動セグメント	⑦門前断層帯	⑧能登半島北岸断層帯	⑨七尾湾東方断層帯
			南に震源		南に震源		北に震源		東下部に震源	南下部に震源	南下部に震源
建物被害（全壊・全焼）		棟	46,947	22,277	23,715	34,068	38,148	5,052	9,444	23,956	29,659
要因別	揺れ	棟	38,100	14,672	15,918	25,697	33,302	3,061	4,904	21,037	23,428
	液状化	棟	5,364	7,155	6,342	6,364	3,847	1,971	4,466	2,537	5,889
	急傾斜地崩壊	棟	88	14	13	54	55	12	28	88	79
	地震火災	棟	3,394	436	1,442	1,954	943	7	46	294	263
建物被害（半壊）		棟	55,359	42,317	43,141	54,656	33,839	8,314	18,476	13,636	32,342
人的被害（死者）		人	2,212	882	920	1,501	1,782	196	309	1,286	1,434
要因別	建物倒壊	人	2,029	843	849	1,405	1,688	190	298	1,239	1,387
	急傾斜地崩壊	人	8	1	1	4	7	1	2	12	8
	地震火災	人	94	6	25	39	31	0	1	4	7
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	81	32	44	53	55	5	8	30	32
人的被害（負傷者）		人	9,344	4,392	4,567	7,331	6,866	885	1,253	4,595	5,810
災害関連死		人	384～768	144～289	223～447	280～561	176～352	17～34	37～75	62～125	105～210
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	787,105	679,607	675,750	795,017	263,401	32,895	59,528	61,309	183,835
	下水道（支障人口）	人	693,323	547,436	579,335	699,286	198,485	8,911	54,344	28,688	94,993
	電力（停電戸数）	戸	296,040	189,889	250,551	289,099	144,300	21,058	42,698	31,155	74,238
	固定通信（不通回線）	回線	211,413	143,057	181,333	207,345	104,353	21,610	37,320	31,176	67,200
	携帯通信（停波基地局率）	%	59.7	40.4	51.2	58.5	29.5	6.1	18.8	14.7	32.0
交通施設	道路被害	箇所	58	65	61	64	63	26	43	51	66
	橋梁被害	箇所	120	169	130	171	111	82	125	92	157
避難者（1週間後）		人	191,898	72,149	111,747	140,144	88,059	8,472	17,211	28,516	50,173

3. 建物・物的・人的被害予測 及び 4. 社会基盤施設等の被害予測

○ 想定シーン（季節・時間帯）ごとの主な項目の被害予測結果 <県内で最大の地震被害となる森本・富樫断層帯の被害予測結果>

想定項目（抜粋）		単位	冬・朝5時	夏・昼12時	冬・夕18時	正月・夕18時	GW・昼12時
建物被害（全壊・全焼）		棟	44,952	40,043	46,947	46,947	40,043
要因別	揺れ	棟	38,100	33,486	38,100	38,100	33,486
	液状化	棟	5,364	5,364	5,364	5,364	5,364
	急傾斜地崩壊	棟	88	90	88	88	90
	地震火災	棟	1,399	1,103	3,394	3,394	1,103
建物被害（半壊）		棟	55,359	59,971	55,359	55,359	59,971
人的被害（死者）		人	2,212	1,648	2,048	1,960	1,614
要因別	建物倒壊	人	2,029	1,543	1,807	1,731	1,511
	急傾斜地崩壊	人	8	7	7	7	7
	地震火災	人	94	57	185	175	56
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	81	40	49	47	40
人的被害（負傷者）		人	9,344	7,086	7,532	7,282	6,981
災害関連死		人	377～753	360～721	384～768	384～768	360～721
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	787,105	738,187	672,313	657,034	728,630
	下水道（支障人口）	人	693,323	665,729	599,860	580,001	655,258
	電力（停電戸数）	戸	296,040	287,646	273,435	267,021	282,543
	固定通信（不通回線）	回線	211,413	205,432	196,100	196,100	205,432
	携帯通信（停電基地局率）	%	59.7	58.0	55.4	55.4	58.0
交通施設	道路被害	箇所	58	58	58	58	58
	橋梁被害	箇所	120	120	120	120	120
避難者（1週間後）		人	188,345	180,220	191,898	191,898	180,220

※他8断層については報告書に記載 ※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある

※避難者については、自宅が無事であってもライフライン停止の長期化により徐々に生活困窮度が増すことを考慮し、避難者数が最大となる1週間後の数値を記載

5. 災害シナリオ

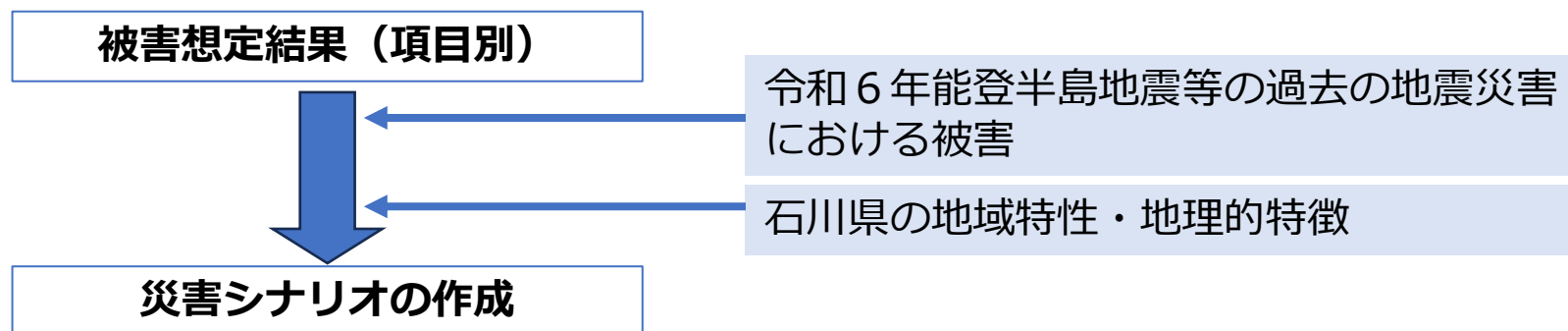
災害シナリオの位置づけ

- 被害想定と災害シナリオの位置づけは次のとおり

	被害想定	災害シナリオ
内容	・ 想定地震ごとの被害量（定量）	・ 時間的な変化（定性+定量）
フェーズ	・ 発災直後のある時点	・ 発災直後～復旧期 （地震発生直後、数日後、1週間後、1か月後）
目的	・ 被害の最大量の把握による具体的な防災対策の立案	・ 被害の様相を時系列で記述することで数値化できない被災後の生活上のリスクなどの把握

災害シナリオ作成の流れ

- 想定項目別に、地震発生後から復旧期までを対象に時間経過ごとに被害様相を整理
- 前章までに算出した定量的な被害想定結果のみならず、令和6年能登半島地震等の過去地震における被害や石川県の地理的特徴などを踏まえて整理
- 本県の地域特性を踏まえ、「誰にでも起こり得るシナリオ」「被災自治体と応援自治体のシナリオ」「中山間地域のシナリオ」の3つの災害シナリオを作成



5. 災害シナリオ – 誰にでも起こり得るシナリオ（県民） –

被害項目	被害の様相（■被害・リスク、□積雪寒冷地、◇季節・時間・特異日）			
	地震発生直後	数日後	1週間後	1か月後
1. 建物被害	■ 森本・富樫断層帯による地震では、県全体で約47,000棟の全壊・全焼建物が発生 ■ 震度6弱以上の地域で耐震性の低い旧耐震基準の建物が多く倒壊 ■ 新耐震基準でも築年数が古い建物は被害発生 □ 大雪時は屋根への積雪荷重の影響で更に建物被害が拡大 ■ 沿岸域等で液状化による建物倒壊などの被害が発生 ◇ 地震火災は火気使用が多い冬の夕方の時間帯での被害が最も大きい □ ストーブ等の火気器具が転倒や可燃物との接触によって出火につながる ■ 木造密集市街地等を中心に同時多発火災が発生	□ 余震や降雨・積雪等により更に建物被害や急傾斜地等の崩壊が拡大 ■ 液状化による建物の傾斜やライフラインへの影響等により自宅での生活困難となる ■ 河道閉塞による周辺地域の水没や堤防の決壊による洪水発生 ■ 火災の鎮火に数日を要することも ■ 復電による通電火災が発生 ■ 被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては人手不足や必要資材確保が困難となり、自宅などの応急復旧作業等が難航	■ 建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所生活が長期化し2次避難が必要 ■ 被災棟数の多さ、道路寸断、余震等による影響から応急危険度判定が難航 ■ 道路の被害状況等により人手不足や必要資材確保が困難となり、自宅などの応急復旧作業等が長期化	■ 建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所や2次避難先での生活の長期化 ■ 被災棟数の多さ、道路寸断、2次避難等の影響から罹災証明書の発行のための被害認定調査が長期化 ■ 道路の被害状況等により人手不足や必要資材確保が困難となり、自宅などの応急復旧作業等が長期化
2. 物的被害	■ 危険なブロック塀や石塀等が転倒 ■ 固定されていない一部の自動販売機が転倒 ■ 老朽化した看板や外壁パネル、窓ガラス等が落下 ■ 宅地で液状化による地盤の傾きによる被害や地盤が水平方向に移動する側方流動が発生	■ 液状化による建物の傾斜やライフラインへの影響等により自宅での生活困難 ■ 余震等により更に被害が拡大	■ 余震等により更に被害が拡大 ■ 道路の被害状況等により人手不足や必要資材確保が困難となり、自宅などの応急復旧作業等が長期化	■ 道路の被害状況等により人手不足や必要資材確保が困難となり、自宅などの応急復旧作業等が長期化
3. 人的被害	■ 森本・富樫断層帯の地震では冬5時の死者が最も多く、約2,200人の死者が発生。建物被害による死者が約9割を占める ■ 地震に伴う急傾斜地の崩壊により家屋の倒壊や土砂による生き埋め等が発生 ■ 出火家屋からの逃げ遅れ、倒壊し延焼被害を受けた家屋内での閉じ込めなどによる死者が発生 ■ 固定していない家具や什器が転倒し死傷者が発生 ■ 道路寸断等により応援部隊の集結に時間を要し、初動期の救助・救援活動に遅れが生じる ■ 通信支障や自治体の業務輻輳により、家族等の安否が確認できない ■ SNS上の虚偽の救助要請により救助活動に支障	■ 建物等の下敷きから救出された者が挫滅症候群（クラッシュ症候群）による体調悪化で死亡 □ 余震や降雨・積雪等による建物被害や急傾斜地等の崩壊の拡大により死傷者が増加 ■ 土砂災害等により迂回路が途絶した孤立集落の応急対応が難航 ◇ 旅行者や帰省者の多い時期に地震が発生した場合は、安否確認が難航するとともに身元不明遺体が増加	■ 土砂災害や地震火災等により行方不明者の捜索活動が難航 ■ 施設の損傷等により火葬場が停止した場合は他地域での広域火葬が必要 ■ 避難所生活の長期化が負担となり災害関連死が発生	■ 土砂災害や地震火災等による行方不明者の捜索活動が続く ■ 避難所生活の長期化や2次避難による移動が負担となり災害関連死が発生

5. 災害シナリオ – 誰にでも起こり得るシナリオ（県民） –

被害項目	被害の様相（■被害・リスク、□積雪寒冷地、◇季節・時間・特異日）			
	地震発生直後	数日後	1週間後	1か月後
4. ライフライン被害	■揺れの強いエリアを中心に水道管被害や浄水場・下水処理施設等の被害により断水し、風呂やトイレが使用できなくなる状況が発生 ■送配電設備や供給側設備の被害より広域的な停電が発生し、携帯電話や電子機器の充電ができない ■停電や回線設備・基地局の被害により通信支障が発生し、固定電話が利用困難なエリアでは、携帯電話での音声通信もパケット通信も利用困難となり、安否確認や情報収集が困難 ■通信障害と言語障壁により、日本語に不慣れな外国人は災害や避難に関する情報を得ることが困難	■被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が難航 ■被害の無かった浄水場や処理場でも燃料枯渇により非常用電源が切れた場合、断水・機能支障が拡大 ■節電要請や大規模な計画停電が実施 ■燃料枯渇により基地局や中継局の非常用電源が切れ通信や放送が困難	■道路の被害状況等により復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■水道管の復旧が進むが断水解消地域は限定的 ■計画停電の実施工エリアでは非常用電源を確保できない基地局や中継局で通信障害が発生	■道路の被害状況等により復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■宅地内配管が被害を受けた場合、施工業者に依頼が殺到し、復旧が難航 ■停電や通信障害は、順次解消
5. 交通施設被害	■道路寸断等による通行止めで大規模渋滞が発生 ■給油のためガソリンスタンドが長蛇の列となる ■新幹線・在来線共に運休となり帰宅困難者が発生 ■岸壁に被害が生じ港湾機能が停止 ■揺れの被害確認のため空港が閉鎖 ■道路等外部との物理的アクセスの断絶等により孤立集落が発生し初動期の実動機関による救助・救援活動に遅れが発生	■被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が難航 ■道路の仮復旧が徐々に進むが緊急車両の通行が優先されるため一般車両の通行は規制 ■道路寸断、一般車両規制により道路渋滞が発生し物流・人流が滞る	■道路の被害状況等により復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■孤立集落の解消は限定的で、引き続き支援が必要な地域も多数 ■滞留車両や放置車両により道路啓開が難航	■道路の被害状況等により復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■道路啓開が進み孤立集落は概ね解消されるが、引き続き支援が必要な地域も多数
6. 生活機能支障	■建物被害やライフライン被害、余震への不安等に伴い多くの県民があらかじめ指定されていた避難所のみならず親戚・知人宅、行政庁舎、各種公的施設、ビニールハウス、自家用車内等に避難 ◇観光客の多い時期に発災した場合には、観光地を中心に多くの帰宅困難者が発生 ■自治体職員の被災により避難所開設に時間を要す ■収容人数が超過した避難所では廊下や踊り場等も避難者で溢れる ■高齢化率が高い地域や複数地域から避難者が寄り集まっている避難所等では、人手不足や自治組織の機能不全により避難所開設・運営が難航 ■施設の損傷やライフラインの支障により被災地内の医療機関の医療提供体制が低下する中、急増する外来対応や人工透析患者の移送等の対応が必要	◇車中泊や屋外テント泊による避難が長期化する場合冬季は継続が困難 ■断水の長期化に伴い飲料水の確保や水洗トイレの使用、洗濯等に支障 ■車中泊者を中心にエコノミークラス症候群等による健康悪化が増加 ■道路事情によりボランティアや支援物資の到着に差が生じ、自治体間や避難所間で食事の配給回数やメニューにバラつきが生じる ■乳児用品や女性用品、アレルギー対応食品、介護用品、持病の薬などが不足 ■慣れない環境から避難者の不安拡大	◇冬季はインフルエンザ等の感染症、夏季には衛生上の問題が発生 ■避難生活の疲弊等による体調・持病の悪化に伴う災害関連死が発生 ■復旧の長期化等に伴い広域避難(1.5次避難、2次避難)を実施 ■介護・福祉施設等では定員超過で要配慮者の受入を続けるも人員・資機材不足等により対応に苦慮	■建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所や2次避難先での生活の長期化 ■各種支援制度の理解に差が生じ、士業団体に協力を得た相談会等を実施 ■避難所外避難者への情報発信に苦慮 ■避難所となっている学校では授業再開に支障

5. 災害シナリオ – 誰にでも起こり得るシナリオ（県民） –

被害項目	被害の様相（■被害・リスク、□積雪寒冷地、◇季節・時間・特異日）			
	地震発生直後	数日後	1週間後	1か月後
7. その他の被害	■地震の揺れによるエレベータの停止に伴い閉じ込め者が発生し、救出に半日以上を要する ■歴史的な木造建造物等が火災等により焼失 ■建造物や石灯籠等の工作物が倒壊、城の石垣や土堀等が崩壊 ■絵画や彫刻等の動産文化財が滅失・毀損するとともに、寺院等の樹木、庭園の草木、天然記念物の動植物等も焼失 ■道路等外部との物理的アクセスの断絶等により孤立集落が発生し初動期の実動機関による救助・救援活動に遅れが発生 ■ため池の決壊により下流域の住宅等が流失し、死傷者が発生。余震の影響でため池が決壊し、実動機関に二次被害が発生する可能性 ■SNS上に虚偽の地震情報等が拡散される可能性 □雪崩等により道路が寸断されスキー客等の帰宅が困難となる	■道路・ライフラインの復旧状況によっては中山間地等において集落の孤立状況が長期化 ■中山間地等の孤立集落における物資の不足が深刻化 ■地すべり等による二次災害の危険性やライフライン被害の長期化等に伴い集落を丸ごと避難する必要性が発生し、ヘリコプター等による避難手段の確保および避難先の調整が必要 ■通信途絶が長期化した孤立集落では移動基地局や衛星通信サービス等の通信手段が無い場合、避難者が自ら情報を得る手段がない	■道路・ライフラインの復旧状況によっては中山間地等において集落の孤立状況が長期化 ■風評被害等により県内への旅行を控える者が多く、設備に被害がない宿泊施設でキャンセルが相次ぐ ■温泉施設等の観光地では被害に伴い復旧までに時間を要する ■伝統的な地場産業でも被害が甚大	■道路・ライフラインの復旧状況によっては避難所や2次避難先での生活の長期化 ■復旧作業の長期化、大量の作業人員の必要性、膨大なコスト等を踏まえ集団移転等を検討する必要性 ■貴重な文化財が滅失・毀損し地域のアイデンティティや観光地としてのシンボルを失う一因となる ■伝統的な地場産業が衰退 ■風評被害等により県全域で観光客が減少
8. 経済被害	■電力や通信機能が途絶することにより、非常用電源や燃料が確保されていない企業・工場は事業継続が困難 ■大企業ではBCPの作成や備蓄等当面の事業継続を確保するための体制の整備が進んでいる一方、中小企業では準備が十分できていないところも多く発災後に事業継続が困難なケースが多数発生 ■工場や従業員等が被災し生産力や生産額が減少 ■建物被害の点検や復旧に時間を要すると、その間は従業員も稼働困難となる	■卸売・飲食・小売業等では受発注や代金決済等に係るデータ管理機能や支払等の金融機能が停止すると、業務が停滞し消費者に商品が届かなくなる ■ライフライン停止の影響により農林畜産業の一部では営業継続が困難 ■港湾・漁港等の被災により港湾・漁港利用者等の事業再開が困難	■事業を再開できない企業が多数生じる ■道路寸断の影響により畜産業では深刻な餌不足となる	■施設・施設被害等に伴う生産・サービス低下による生産額が減少 ■企業が撤退・倒産することにより、被災地域外への人口・産業流出し、失業の増加、所得が低下

5. 災害シナリオ –被災自治体と応援自治体のシナリオ（行政）–

被害項目	被害の様相（■被害・リスク、□積雪寒冷地、◇季節・時間・特異日、◆R6能登半島地震における課題）			
	地震発生直後	数日後	1週間後	1か月後
全般	■揺れ等による被害で庁舎が使用困難になるおそれ ■職員の被災等により職員参集が遅れる ■指揮命令権者の参集遅れにより災害応急対策に混乱が生じる ■家族等の安否に関する問い合わせが自治体に殺到 ◆平時からの災害対応や業務の優先順位の理解不足等により初動対応が遅れが生じる ◆災害対策本部・関係機関が業務するスペースが不足することにより、県・国・消防・自衛隊等主要機関が分散して執務することになり情報共有に影響が生じる ◆自治体における応援自治体との連携・情報共有が不足	◆人的支援受入れチームにおいて調整すべき範囲（国、県、市町）、リーダー、担当者等が明記されておらず、自発的に機能しないため、関係者間で情報共有が不十分 ◆想定以上の応援機関・団体が参集した影響で、会議室の開放ルール等が整理しきれず、応援機関・団体の居場所が不明となる ◆派遣に係る寝袋・食料等資機材の備蓄や連絡・移動手段等が不足 ◆支援者の宿泊施設が不足し、過酷な生活環境となる。女性が従事できる環境に課題(着替えスペース、女性専用宿泊スペース)	■適切な支援・受援計画がない場合は、支援・受援の効率が低下 ◆災害救助費の求償範囲の定義が明確でないため省庁により判断が異なる判断に時間がかかる等により支援が遅延 ◆災害救助法、中小機構の支援スキーム等活用対象が不明瞭 ■建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所生活が長期化、2次避難への対応が必要	■適切な宿泊場所、生活場所が確保できず、職員が健康を損なう ◆被災している職員、育児等により勤務時間に制限がある職員等、職員の事情への配慮が必要 ◆活用可能な財源の確認に時間がかかることで支援が遅延 ■建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所や2次避難先での生活支援への対応が必要
ライフライン被害	◆停電・通信の途絶により被害状況が把握できず各種判断が困難となり初動対応が遅滞 ■停電・通信の途絶により消防団等の初動対応が十分にはなされない	■被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が難航する可能性 ■応援自治体では停電・通信の途絶により被災状況の把握に時間がかかり他都道府県市区町村との間の支援の調整に時間を要する ■避難所等で災害用トイレ等の確保が必要	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化する可能性 ■病院等も停電の影響を受けるため、非常用電源が配備されている施設以外は治療が困難	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化
交通施設被害	■停電や通信の途絶により被害状況が把握が遅れる ■人員数、道路状況により消火活動が困難となり、更に延焼が広がる恐れ ■揺れにより岸壁に被害が発生することで港湾機能が停止 ■被害確認のため空港が閉鎖	■被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が難航する可能性 ■新幹線・在来線共に広域にわたり運転を合わせ、外国人や観光客を含めた大量の帰宅困難者が発生 ■道路啓開が難航した場合、他地域からの救援活動のための自動車乗り入れが限られる	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化する可能性 ■港湾・空港を救急・救命活動、物資・人員輸送の拠点として使用	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化

5. 災害シナリオ –中山間地のシナリオ（住民・行政）–

被害項目	被害の様相（■被害・リスク、□積雪寒冷地、◇季節・時間・特異日、◆R6能登半島地震における課題）			
	地震発生直後	数日後	1週間後	1か月後
全般	■中山間地では耐震化率が低い傾向であるため、建物・人的被害率が高い傾向 ■インフラ・ライフラインや生活に必要な施設が限定的であり、一部の被災により被災地へ陸路でのアクセスが困難となるほか代替施設の確保が困難	■インフラ・ライフラインの復旧が遅れる（被災人口が多い都市部のインフラ復旧が優先される） ■高齢化や人口減少に伴って、応急復旧のための人員等の制約が大きく生活に必要な施設も限定的	■左記の状況により生活再建が困難化 ■生活の質の回復が遅れて災害関連死にもつながりやすい ■建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所生活が長期化、2次避難への対応が必要	■広域避難した人が避難先で生活基盤を再建し地域の縮退が急速に進行 ■事前の復興計画等が無い場合、復興が円滑に進まない ■建物被害・道路・ライフラインの復旧状況により避難所や2次避難先での生活支援への対応が必要
ライフライン被害	■送配電設備や供給側設備の被害に伴い停電が発生 ■停電や回線設備・基地局の被害に伴い通信支障が発生 ■水道管や浄水場等の設備被害に伴い断水や下水道支障が発生 ■発電用用水の被害により発電所の稼働が低下	■被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が難航 ■通信途絶が長期化した孤立集落では避難者が自ら情報を得る手段がない ■過疎地での給油店では早期に燃料が不足 ■道路寸断により復旧対応や非常用発電機等への燃料供給が困難となり支障が長期化	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■被災人口が多い都市部の復旧が優先され、復旧が遅滞	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■生活や事業の再建が困難となった場合、人口流出に拍車をかける
交通施設被害	■土砂災害等により迂回が困難な道路が被災し、その先が孤立	■被害規模や範囲、道路寸断の状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が難航 ■道路寸断、一般車両規制により道路渋滞が発生する可能性 ■孤立した場合、道路を利用した物資輸送が困難となることから物資が不足 ■輸送距離が長距離になるなど物資輸送が遅滞	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■孤立集落では物資輸送にドローンを活用するが十分に供給できない	■道路等の被害状況によっては復旧要員や必要資材確保が困難となり、応急復旧作業等が長期化 ■孤立等が解消しない場合、復旧コストも鑑みて集団移転等の検討が必要
生活機能支援	■建物被害やライフライン被害により、多数の避難者が発生 ■山間部において、集落住民のほか温泉等の観光客も孤立 ■高齢化の進む集落で、外部へ助けを呼ぶための通信機器を使う住民や徒歩・バイクで直接連絡を取れる住民がおらず、外部への孤立発生状況の発信が困難	■入院患者や要介護高齢者等が長時間の避難をせざるを得なくなり、移動中や移動後に病状が悪化し災害関連死が発生 ■地域の高齢化や人口減少により要配慮者は多い一方で支援等の担い手となる生産年齢人口は少ないため、避難所運営のためのマンパワー等が不足 ◆市町物資拠点からの確実な輸送が必要となるがヘリコプターやマンパワーも不足	■避難所生活の長期化により災害関連死が発生 ◆DWA T派遣に関するノウハウが不足 ◆介護用ベッド、おむつ等が不足するとともに、個別ニーズ物品が多く調達に苦慮	■避難所生活の長期化や2次避難による移動が負担となり災害関連死が発生 ■避難先や社会福祉施設等で人員が不足する中で避難生活が長期化し、他地域への広域避難（人口流出）が加速 ◆避難所集約等、支援終期を見据えた調整が必要

6. 県民の防災対策①とその被害軽減効果（森本・富樫断層帯）

建物耐震化率の向上

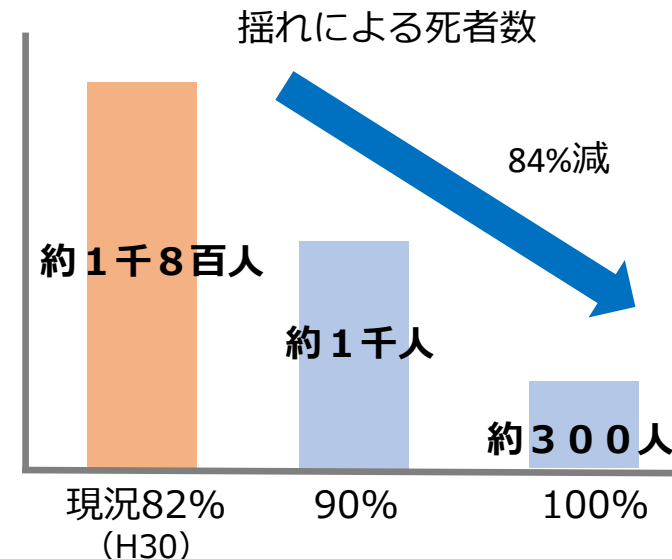
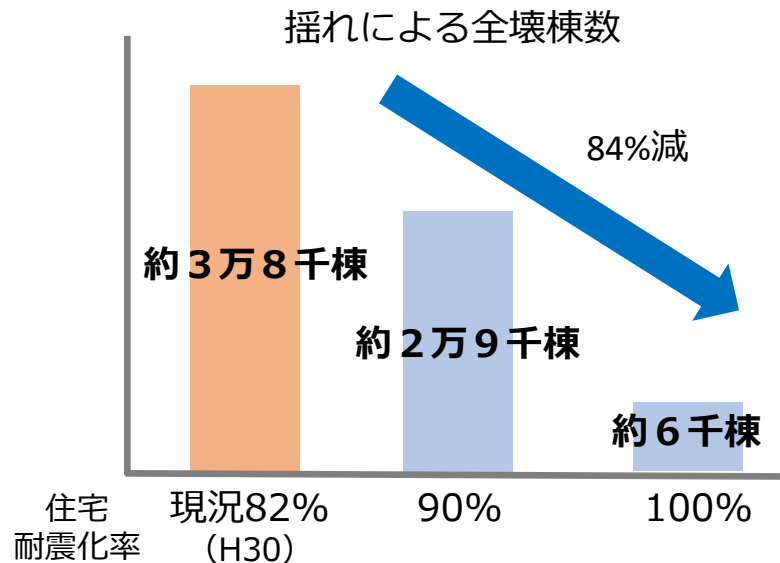
- 耐震化率の向上により**全壊棟数は大幅に低減**
 - 建物倒壊による**死者数も大幅に低減**
- ➡ 耐震診断・耐震改修の推進が重要



いしかわ住宅耐震
ネットワーク協議会
耐震化補助パンフレット

▼ホームページはこちら

いしかわ 今すぐ 耐震 検索



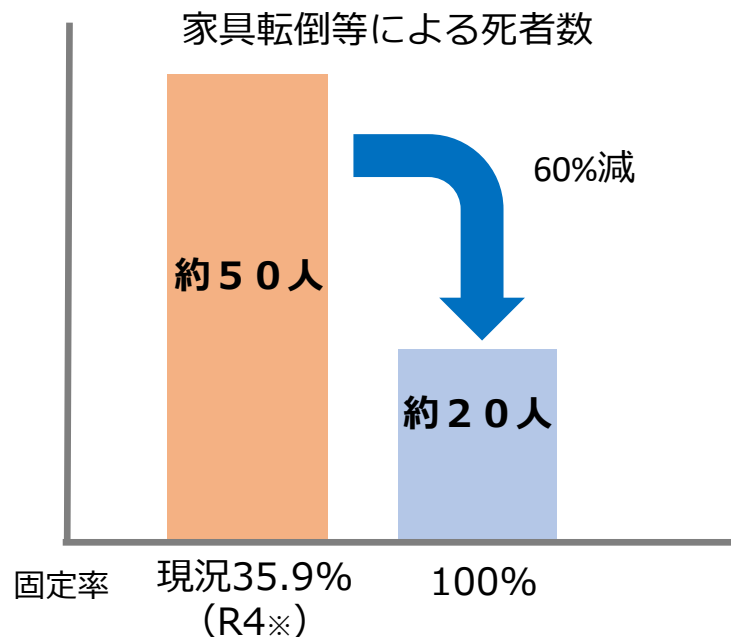
- 耐震化した建物であっても揺れの強さや地盤、過去の震災で蓄積した損傷等によって被害を受ける可能性がある
- 建物が無事であっても道路や上下水道の損傷により生活基盤が被害を被り、生活が困難となる可能性がある
- 新しいビルなどの構造物についても、杭の耐震設計がなされていない場合は傾くなどの被害が生じる可能性がある

6. 県民の防災対策②とその被害軽減効果（森本・富樫断層帯）

家具固定率の向上

○家具固定率の向上により**死者数は半減**

➡大きな家具の転倒・落下防止対策が重要



- 家具をL型金具などで壁に直接ネジ固定する方法が最も効果が高い
- 家具の上部と天井の間に、ポール式やすき間家具などで家具を固定する場合は、ストッパー式や粘着マット式を併用すると効果が高い
- ポール式の場合は、天井に下からの突き上げに耐える強度が必要で、強度がない場合は、当て板等で補強する必要がある
- マット式やストッパー式の器具の単独使用は効果が小さい。家具の重量、奥行きなどの条件によって違いはあるが、一般に大きな家具には適していない

※「防災に関する世論調査」(内閣府)

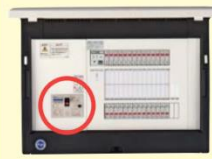
出典：東京消防庁『家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック』

6. 県民の防災対策③とその被害軽減効果（森本・富樫断層帯）

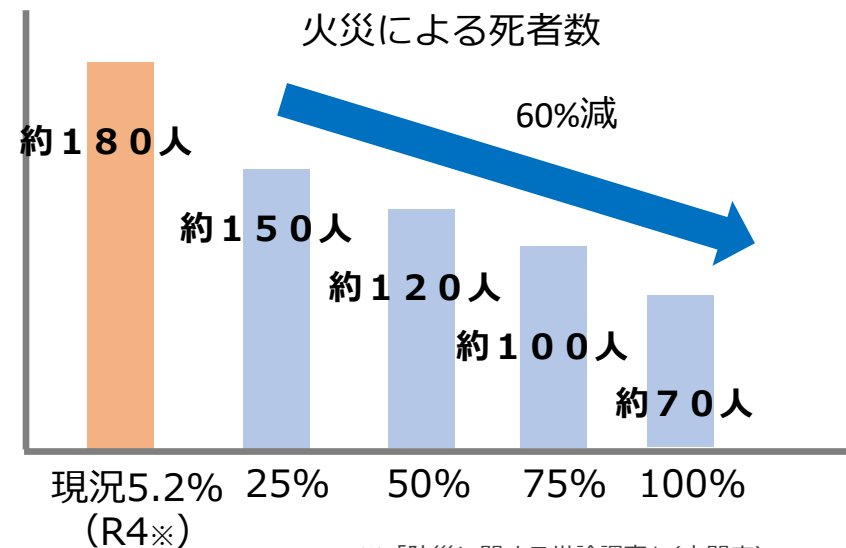
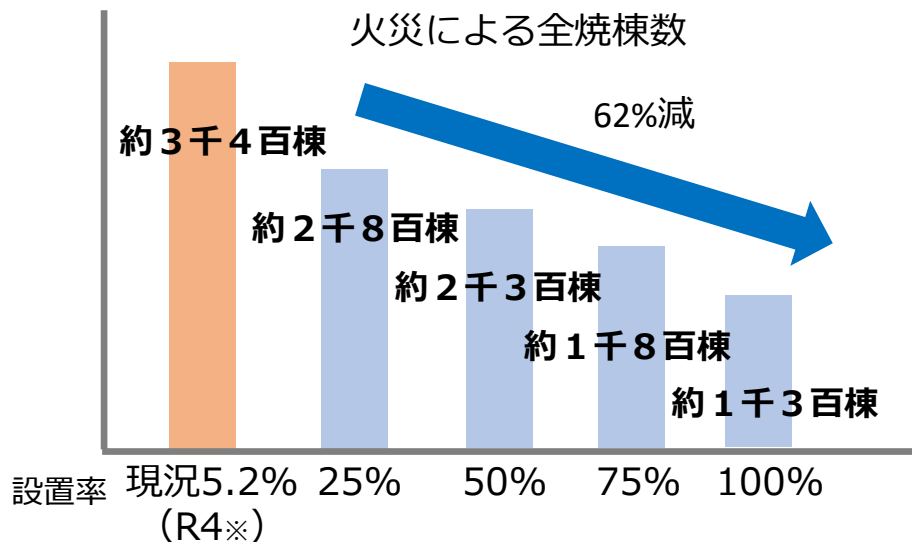
感震ブレーカー設置率の向上

- 感震ブレーカーの設置率向上により**全焼棟数は約 6 割低減**
- 死者数も約 6 割低減**

➡感震ブレーカーの周知および設置促進が重要

【感震ブレーカーの種類】			
分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
			
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作用や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

感震ブレーカー等普及啓発リーフレット(H27内閣府・消防庁・経産省)より引用



※「防災に関する世論調査」（内閣府）

6. 県民の防災対策④

家庭内備蓄の促進

- 地震に備え、最低でも「**3日分**」、できれば「**1週間分**」の**食品や簡易トイレ**を**各家庭で備蓄**することが重要

備蓄の目安（1週間分/大人2人の場合）

出典：政府広報オンライン

●必需品

- ・水 2 L × 6 本 × 4 箱（1 人 1 日 3 L 程度）
- ・カセットコンロ、カセットボンベ × 1 2 本

●主菜（たんぱく質）

- ・肉・野菜・豆などの缶詰 × 1 8 缶
- ・牛丼の素やカレーなどのレトルト食品 × 1 8 個
- ・パスタソースなどのレトルト食品 × 6 個

●主食（炭水化物）

- ・米 2 k g × 2 袋
- ・カップ麺類 × 6 個
- ・パックごはん × 6 個
- ・乾麺 そうめん 3 0 0 g × 2 袋
パスタ 6 0 0 g × 2 袋

●トイレ

- ・簡易トイレ 1 0 回 × 7 日
（成人の平均排泄回数 5 回）

- このほか**アレルギーや持病の対応食、乳幼児用ミルク**などのそれぞれの人にあつた備蓄が必要

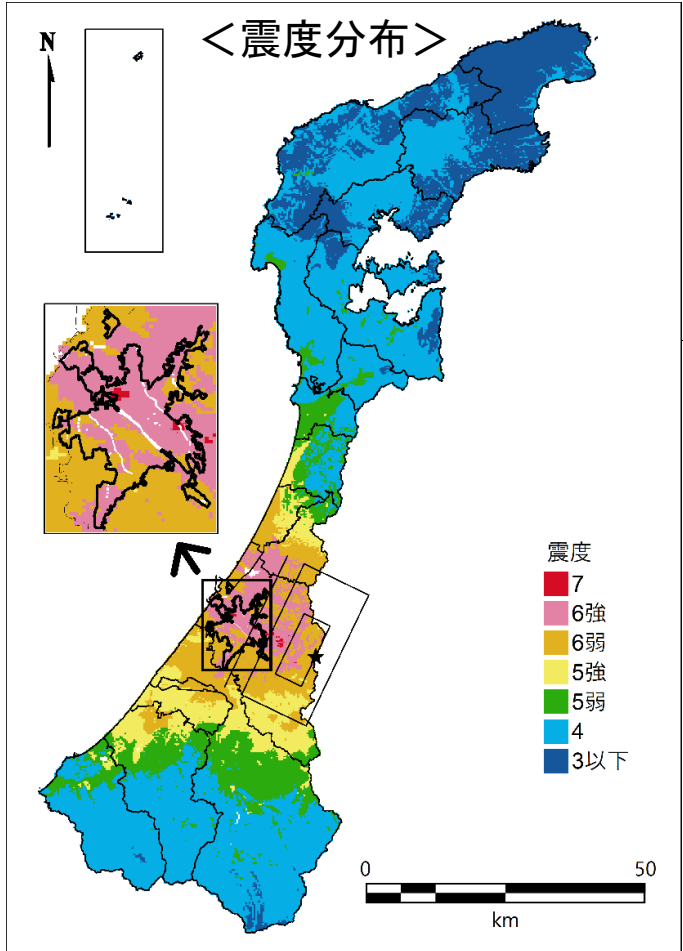


【参考】 想定地震ごとの主な被害予測結果

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・18時・強風、
人的被害・ライフライン被害は冬・5時・強風の結果を記載

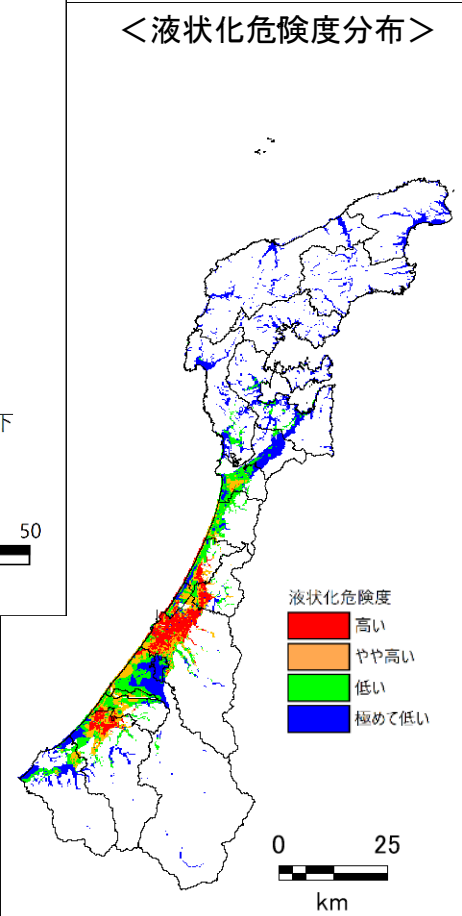
- ① 森本・富樫断層帯
- ② 邑知潟断層帯（南に震源）
- ③ 砺波平野断層帯西部
- ④ 庄川断層帯（南に震源）
- ⑤ 福井平野東縁断層帯主部（北に震源）
- ⑥ 能登海岸活動セグメント
- ⑦ 門前断層帯（東下部に震源）
- ⑧ 能登半島北岸断層帯（南下部に震源）
- ⑨ 七尾湾東方断層帯（南下部に震源）

① 森本・富樫断層帯の主な被害予測結果



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

- 県内で最大の建物被害・人的被害が想定される地震
- 震源に近い県央地域で震度6以上と揺れが大きくなり、金沢市の一部地域で最大震度7の強い揺れが想定される。



建物被害（全壊・全焼）		46,947	棟
要因別	揺れ	38,100	棟
	液状化	5,364	棟
	急傾斜地崩壊	88	棟
	地震火災	3,394	棟
建物被害（半壊）		55,359	棟
人的被害（死者）		2,212	人
要因別	建物倒壊	2,029	人
	急傾斜地崩壊	8	人
	地震火災	94	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	81	人
人的被害（負傷者）		9,344	人
災害関連死		384～768	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	787,105	人
	下水道（支障人口）	693,323	人
	電力（停電戸数）	296,040	戸
	固定通信（不通回線）	211,413	回線
	携帯通信（停電基地局率）	59.7	%
交通施設	道路被害	58	箇所
	橋梁被害	120	箇所
避難者（1週間後）		191,898	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

① 森本・富樫断層帯の主な被害予測結果

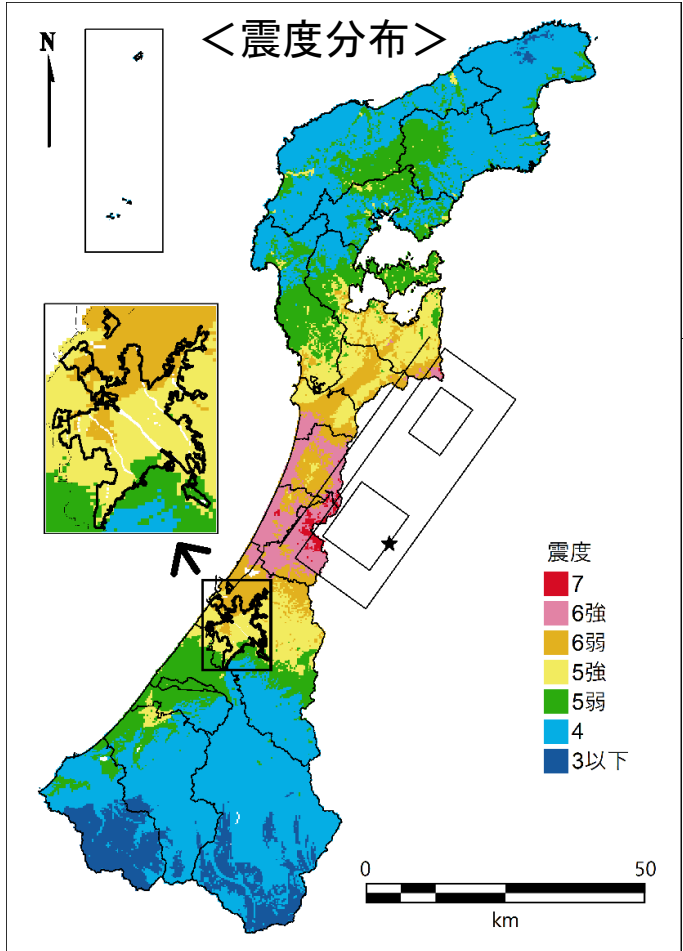
想定項目（抜粋）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	35,900	40	1,241	0	0	225	246	799	3,328	714	1,281	138	1,488	1,327	7	191	22	0	0
要因別	揺れ	棟	30,768	0	135	0	0	0	0	343	2,977	291	1,103	118	1,272	1,094	0	0	0	0	0
	液状化	棟	2,035	40	1,106	0	0	225	246	457	249	422	13	19	175	157	7	191	22	0	0
	急傾斜地崩壊	棟	65	0	0	0	0	0	0	0	20	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	地震火災	棟	3,033	0	0	0	0	0	0	0	81	0	166	0	38	76	0	0	0	0	0
	建物被害(半壊)	棟	31,064	164	4,950	0	0	900	941	2,685	5,047	2,757	1,662	298	1,933	2,198	35	644	79	1	0
人的被害(死者)		人	1,788	0	8	0	0	0	0	21	182	19	61	8	68	58	0	0	0	0	0
要因別	建物倒壊	人	1,627	0	8	0	0	0	0	20	174	18	57	7	62	55	0	0	0	0	0
	急傾斜地崩壊	人	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	人	91	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、 屋内収容物移動・転倒	人	64	0	1	0	0	0	0	1	4	1	3	0	5	2	0	0	0	0	0
人的被害(負傷者)		人	6,743	0	101	0	0	1	1	183	989	155	402	43	348	379	0	1	0	0	0
災害関連死		人	289～577	0～0	8～16	0～0	0～0	1～2	1～3	6～13	24～49	5～9	17～33	1～2	20～41	11～22	0～0	1～2	0～0	0～0	0～0
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	463,341	35	11,880	1	0	460	312	37,385	93,155	54,078	56,710	2,117	38,646	28,408	42	520	15	0	0
	下水道（支障人口）	人	453,649	152	7,447	15	0	993	835	35,196	86,667	48,976	58,634	54	6	89	404	179	24	0	0
	電力（停電戸数）	戸	186,659	147	15,176	6	0	1,622	1,063	8,636	28,295	9,508	21,264	1,181	12,242	8,959	188	1,036	60	0	0
	固定通信（不通回線）	回線	135,441	152	10,872	7	0	1,255	1,098	6,979	20,889	6,575	13,018	836	7,992	5,169	134	943	53	0	0
	携帯通信（停波基地局率）	%	90.4%	0.7%	36.8%	0.1%	0.0%	6.4%	13.2%	69.0%	69.4%	52.3%	81.4%	61.9%	91.6%	83.2%	2.5%	23.4%	1.0%	0.0%	0.0%
交通施設	道路被害	箇所	23	0	6	0	0	1	1	5	9	3	2	1	4	2	0	2	0	0	0
	橋梁被害	箇所	44	3	16	0	0	9	7	7	9	5	0	3	2	7	1	7	0	0	0
避難者（1週間後）		人	144,288	81	3,782	0	0	513	543	3,166	12,201	2,284	8,264	515	10,220	5,489	10	511	31	0	0

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載

※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

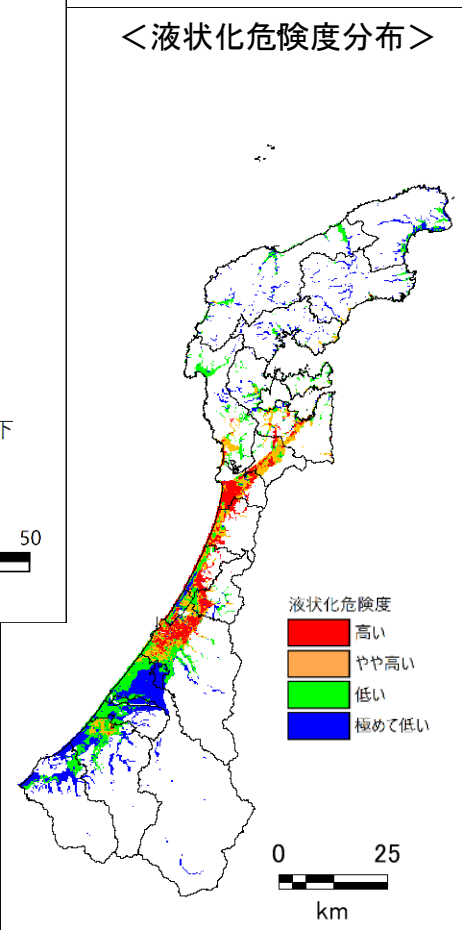
参考

② 邑知潟断層帯の主な被害予測結果（南に震源）



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

○ 震源に近い能登南部地域および県央地域の広い範囲で震度6強以上と揺れが大きくなり、七尾市、かほく市、津幡町、宝達志水町の一部の地域で最大震度7の強い揺れが想定される。



建物被害（全壊・全焼）		22,277	棟
要因別	揺れ	14,672	棟
	液状化	7,155	棟
	急傾斜地崩壊	14	棟
	地震火災	436	棟
建物被害（半壊）		42,317	棟
人的被害（死者）		882	人
要因別	建物倒壊	843	人
	急傾斜地崩壊	1	人
	地震火災	6	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	32	人
人的被害（負傷者）		4,392	人
災害関連死		144～289	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	679,607	人
	下水道（支障人口）	547,436	人
	電力（停電戸数）	189,889	戸
	固定通信（不通回線）	143,057	回線
	携帯通信（停波基地局率）	40.4	%
交通施設	道路被害	65	箇所
	橋梁被害	169	箇所
避難者（1週間後）		72,149	人

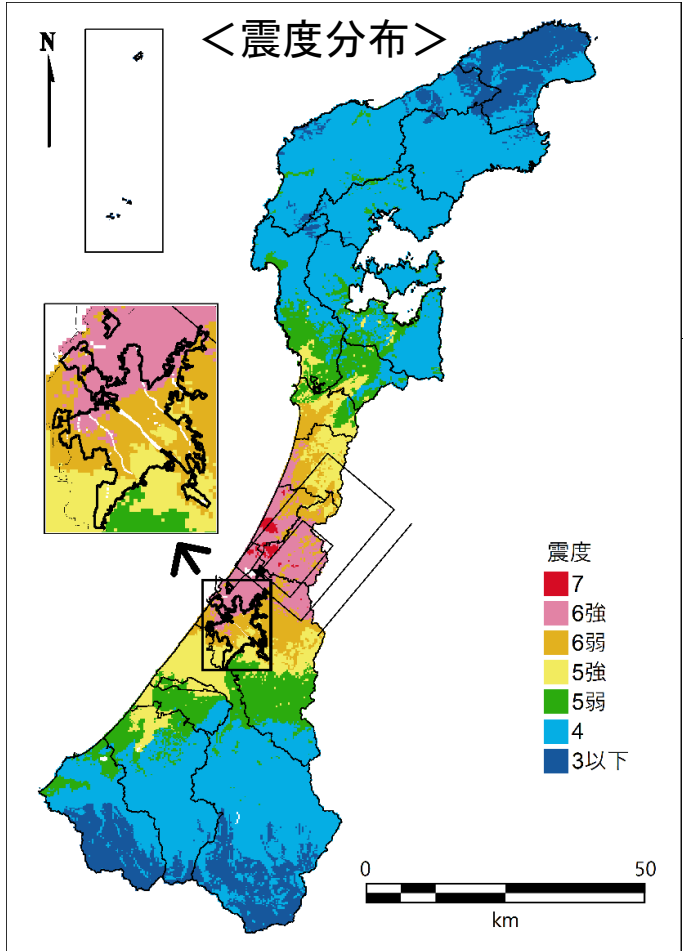
※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

② 邑知潟断層帯の主な被害予測結果（南に震源）

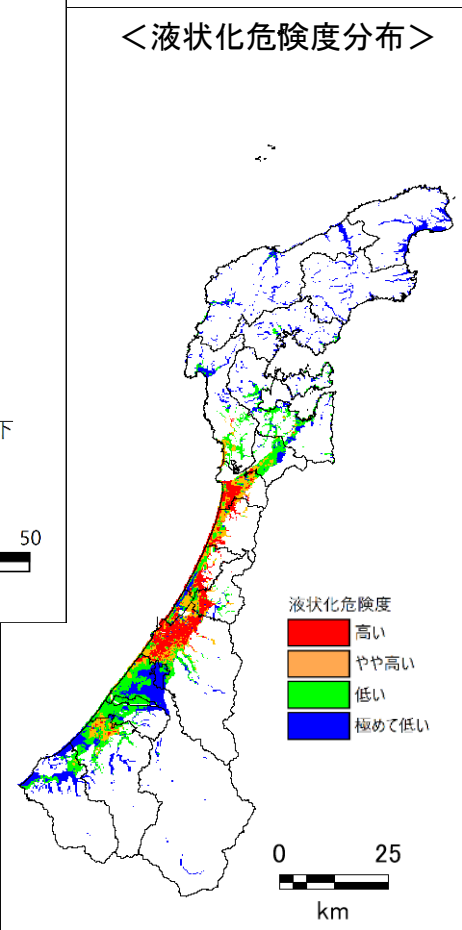
想定項目（振枠）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	5,149	1,199	507	30	45	52	3,710	5,271	109	97	12	3	1,821	720	538	1,857	822	62	274
要因別	揺れ	棟	2,996	383	0	0	0	0	2,813	4,628	8	0	1	0	1,613	562	20	1,549	98	0	0
	液状化	棟	1,944	811	507	30	45	52	862	486	100	96	10	3	175	157	518	298	724	62	274
	急傾斜地崩壊	棟	1	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0
	地震火災	棟	207	0	0	0	0	0	34	154	0	0	2	0	32	1	0	5	0	0	0
建物被害（半壊）		棟	16,376	3,198	2,248	128	157	254	3,817	4,561	669	553	109	25	1,966	1,782	1,801	1,502	2,322	160	688
人的被害（死者）		人	179	25	0	0	0	0	175	278	1	0	0	0	87	30	1	99	7	0	0
要因別	建物倒壊	人	174	24	0	0	0	0	170	265	0	0	0	0	79	29	1	94	6	0	0
	急傾斜地崩壊	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	人	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	5	1	0	0	0	0	4	9	0	0	0	0	6	1	0	4	0	0	0
人的被害（負傷者）		人	1,107	159	3	1	0	1	752	1,227	9	2	8	0	405	226	20	389	84	1	0
災害関連死		人	48～96	6～12	3～7	0～0	0～0	0～1	15～30	26～52	1～2	1～1	1～1	0～0	22～44	8～15	2～3	9～19	3～6	0～0	1～2
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	462,695	51,236	1,150	165	26	102	22,106	37,385	2,325	711	2,797	90	38,649	28,408	1,433	12,642	17,468	145	73
	下水道（支障人口）	人	453,649	24,698	2,488	611	29	603	15,802	35,196	5,334	2,550	3,838	12	6	89	1,112	1,194	7	166	51
	電力（停電戸数）	戸	105,707	11,184	3,650	632	111	415	6,560	11,508	7,808	2,249	7,802	258	12,257	8,534	2,101	3,968	4,359	487	300
	固定通信（不通回線）	回線	76,605	11,566	2,613	696	96	321	6,834	9,322	5,739	1,553	4,765	182	8,009	4,919	1,504	3,631	3,881	515	308
	携帯通信（停電基地局率）	%	51.1%	55.1%	8.8%	6.2%	2.0%	1.6%	82.2%	92.2%	19.1%	12.4%	29.8%	13.4%	91.7%	79.2%	28.2%	90.1%	71.5%	14.8%	4.6%
交通施設	道路被害	箇所	17	11	2	1	0	1	4	6	3	1	1	0	6	2	3	4	3	1	1
	橋梁被害	箇所	44	23	14	6	3	7	8	7	3	5	0	3	2	7	20	7	2	4	4
避難者（1週間後）		人	24,062	2,981	1,391	66	41	127	6,998	13,039	482	263	316	18	11,108	3,830	691	4,635	1,606	104	390

③ 砺波平野断層帯西部の主な被害予測結果



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

○ 震源に近い能登南部地域および県央地域の広い範囲で震度6強以上と揺れが大きくなり、金沢市、かほく市、津幡町、内灘町、宝達志水町の一部の地域で最大震度7の強い揺れが想定される。



建物被害（全壊・全焼）		23,715	棟
要因別	揺れ	15,918	棟
	液状化	6,342	棟
	急傾斜地崩壊	13	棟
	地震火災	1,442	棟
建物被害（半壊）		43,141	棟
人的被害（死者）		920	人
要因別	建物倒壊	849	人
	急傾斜地崩壊	1	人
	地震火災	25	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	44	人
人的被害（負傷者）		4,567	人
災害関連死		223～447	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	675,750	人
	下水道（支障人口）	579,335	人
	電力（停電戸数）	250,551	戸
	固定通信（不通回線）	181,333	回線
	携帯通信（停電基地局率）	51.2	%
交通施設	道路被害	61	箇所
	橋梁被害	130	箇所
避難者（1週間後）		111,747	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

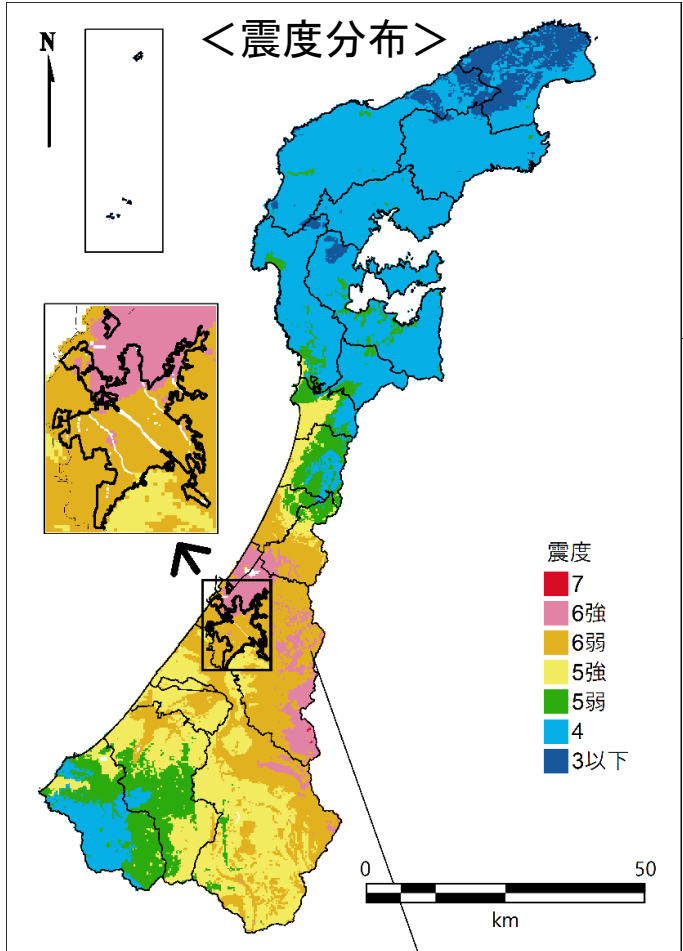
参考

③ 砺波平野断層帯の主な被害予測結果

想定項目（抜粋）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	10,787	387	726	2	0	94	936	5,222	204	195	26	12	1,673	2,053	324	612	448	13	0
要因別	揺れ	棟	7,689	0	0	0	0	0	108	4,544	35	0	6	0	1,449	1,765	0	321	0	0	0
	液状化	棟	2,018	387	726	2	0	94	827	489	169	195	12	12	176	159	324	292	448	13	0
	急傾斜地崩壊	棟	9	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	地震火災	棟	1,071	0	0	0	0	0	0	186	0	0	8	0	48	129	0	0	0	0	0
建物被害（半壊）		棟	20,236	1,286	3,128	13	0	423	2,991	4,531	1,124	1,043	173	78	1,945	2,416	1,125	1,330	1,246	54	1
人的被害（死者）		人	451	0	0	0	0	0	7	267	2	0	1	0	79	91	0	21	0	0	0
要因別	建物倒壊	人	414	0	0	0	0	0	7	252	2	0	0	0	71	83	0	20	0	0	0
	急傾斜地崩壊	人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	人	15	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	21	0	0	0	0	0	0	10	1	0	1	0	6	5	0	1	0	0	0
人的被害（負傷者）		人	2,199	2	7	0	0	1	81	1,201	32	4	15	1	373	517	2	133	2	0	0
災害関連死		人	131～262	2～4	5～9	0～0	0～0	1～1	5～9	28～56	3～7	1～2	3～6	0～0	24～47	17～33	1～2	5～9	1～3	0～0	0～0
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	463,023	544	2,514	23	0	225	22,106	37,385	10,583	1,495	56,710	212	38,647	28,408	790	12,607	460	16	0
	下水道（支障人口）	人	453,649	1,121	3,477	137	0	691	15,802	35,196	6,007	2,863	58,634	24	6	89	712	796	0	128	0
	電力（停電戸数）	戸	160,724	1,864	6,177	102	0	842	4,793	11,795	15,565	3,841	15,805	476	12,614	9,846	1,315	3,507	1,207	76	0
	固定通信（不通回線）	回線	116,429	1,924	4,421	113	0	652	4,956	9,545	11,443	2,652	9,654	336	8,234	5,679	941	3,200	1,074	80	0
	携帯通信（停電基地局率）	%	77.7%	9.2%	15.0%	1.0%	0.0%	3.3%	59.6%	94.4%	38.0%	21.1%	60.3%	24.9%	94.3%	91.4%	17.7%	79.4%	19.8%	2.3%	0.0%
交通施設	道路被害	箇所	21	1	3	0	0	1	3	7	6	2	1	1	6	2	1	4	1	0	0
	橋梁被害	箇所	44	12	14	0	0	7	8	7	6	5	0	3	2	7	7	7	1	0	0
避難者（1週間後）		人	65,431	732	1,970	6	0	223	2,068	14,107	1,644	518	1,499	55	11,860	8,343	421	2,252	594	25	1

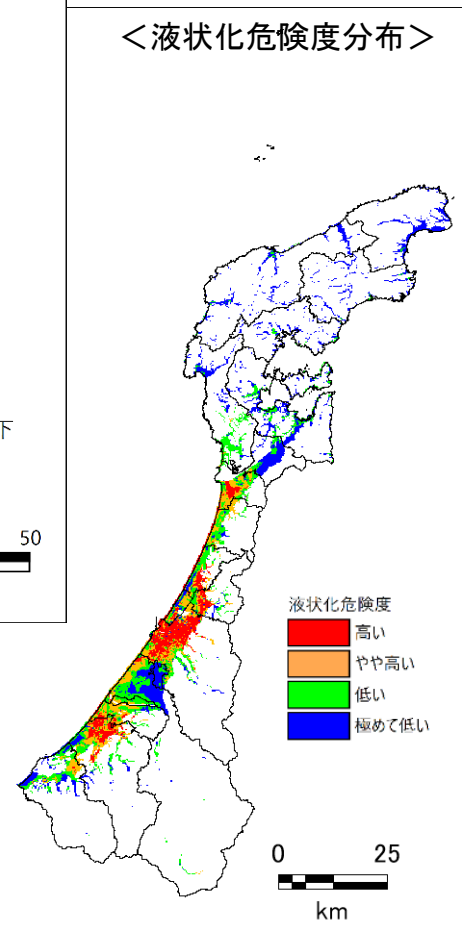
参考

④ 庄川断層帯の主な被害予測結果（南に震源）



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

○ 震源に近い県央地域および加賀地域で震度6強以上と揺れが大きくなり、金沢市と白山市の一部の地域で最大震度7の強い揺れが想定される。



建物被害（全壊・全焼）		34,068	棟
要因別	揺れ	25,697	棟
	液状化	6,364	棟
	急傾斜地崩壊	54	棟
	地震火災	1,954	棟
建物被害（半壊）		54,656	棟
人的被害（死者）		1,501	人
要因別	建物倒壊	1,405	人
	急傾斜地崩壊	4	人
	地震火災	39	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	53	人
人的被害（負傷者）		7,331	人
災害関連死		280～561	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	795,017	人
	下水道（支障人口）	699,286	人
	電力（停電戸数）	289,099	戸
	固定通信（不通回線）	207,345	回線
	携帯通信（停波基地局率）	58.5	%
交通施設	道路被害	64	箇所
	橋梁被害	171	箇所
避難者（1週間後）		140,144	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風の、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載

※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

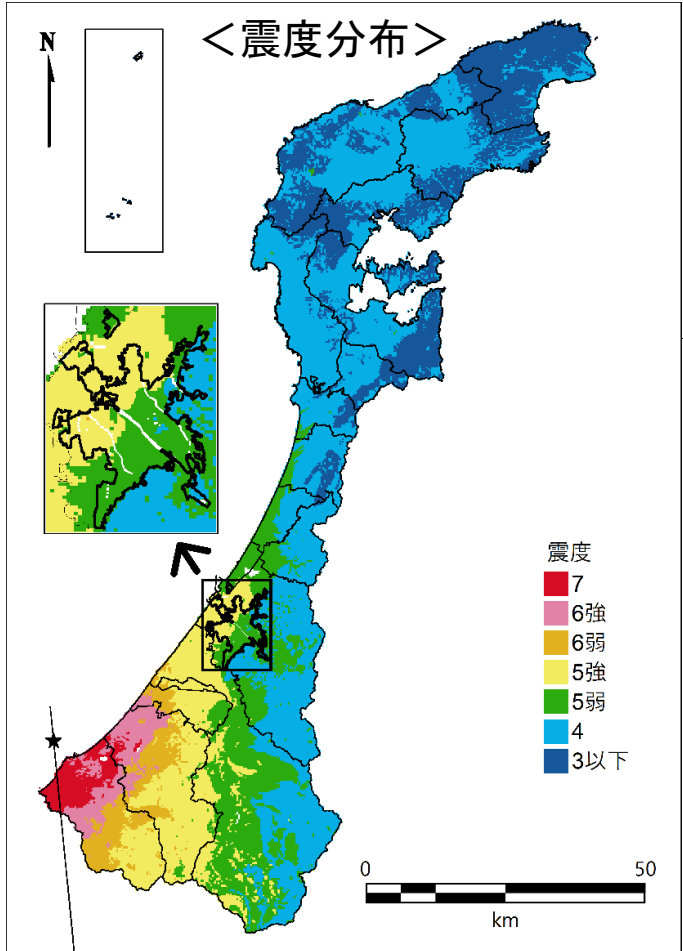
参考

④ 庄川断層帯の主な被害予測結果（南に震源）

想定項目（抜粋）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	21,060	199	1,703	7	2	301	745	2,626	1,656	849	406	64	1,850	2,023	139	354	63	12	10
要因別	揺れ	棟	17,309	0	552	0	0	6	43	2,125	1,349	408	380	45	1,641	1,742	1	96	0	0	0
	液状化	棟	2,024	199	1,150	7	2	295	702	466	240	435	13	20	174	157	137	258	63	12	10
	急傾斜地崩壊	棟	17	0	1	0	0	0	0	0	30	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	棟	1,711	0	0	0	0	0	0	35	37	0	13	0	34	123	0	0	0	0	0
建物被害（半壊）		棟	25,674	678	5,954	34	7	1,211	2,562	3,952	3,937	3,130	921	227	2,023	2,477	555	1,036	195	48	35
人的被害（死者）		人	1,015	0	35	0	0	0	3	130	86	26	22	3	86	89	0	6	0	0	0
要因別	建物倒壊	人	942	0	33	0	0	0	3	128	81	25	20	3	80	84	0	6	0	0	0
	急傾斜地崩壊	人	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	人	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	34	0	1	0	0	0	0	2	3	1	2	0	6	4	0	0	0	0	0
人的被害（負傷者）		人	4,254	1	299	0	0	10	46	705	594	221	180	23	419	527	3	52	0	0	0
災害関連死		人	185～369	1～2	11～22	0～0	0～0	2～3	4～8	12～25	14～28	6～12	8～15	1～1	21～42	15～31	0～1	2～4	0～0	0～0	0～0
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	463,340	200	18,803	13	0	1,715	1,929	37,385	90,483	54,078	56,710	1,293	38,647	28,408	149	1,830	34	1	0
	下水道（支障人口）	人	453,649	508	11,067	107	1	1,927	1,676	35,196	86,667	48,976	58,634	44	6	89	496	242	0	1	0
	電力（停電戸数）	戸	171,035	453	19,978	54	2	3,760	2,753	9,066	26,581	11,451	19,140	997	11,956	9,682	456	1,610	118	4	1
	固定通信（不通回線）	回線	124,144	468	14,327	60	1	2,911	2,846	7,367	19,582	7,918	11,707	705	7,816	5,584	327	1,472	105	4	1
	携帯通信（停電基地局率）	%	82.8%	2.2%	48.5%	0.5%	0.0%	14.9%	34.2%	72.9%	65.1%	63.0%	73.2%	52.2%	89.5%	89.9%	6.1%	36.5%	1.9%	0.1%	0.0%
交通施設	道路被害	箇所	21	1	7	0	0	3	2	5	10	3	2	1	4	2	0	2	0	0	0
	橋梁被害	箇所	44	14	16	3	0	16	8	7	18	5	0	3	2	7	19	7	2	0	0
避難者（1週間後）		人	92,367	379	5,560	17	2	688	1,590	6,120	7,093	2,983	3,770	291	10,391	7,672	189	908	86	23	15

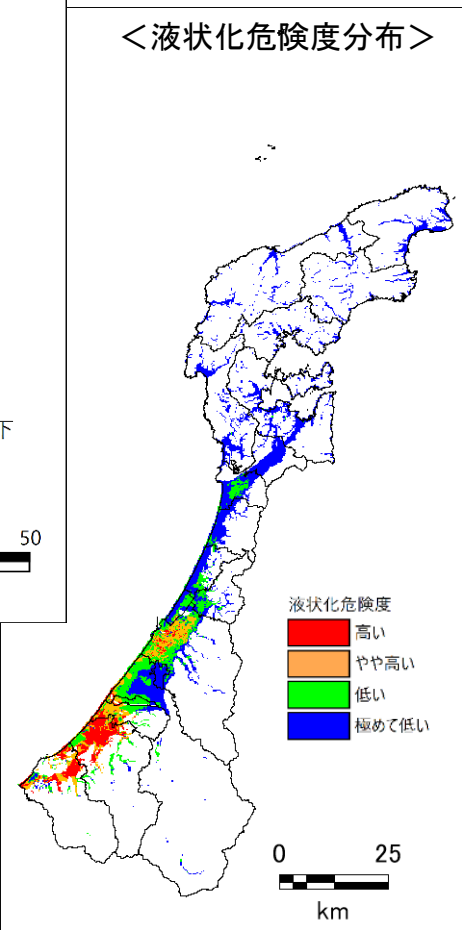
参考

⑤ 福井平野東縁断層帯主部の主な被害予測結果（北に震源）



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

○ 震源に近い加賀地域で震度6強以上と揺れが大きくなり、小松市と加賀市の広い範囲で最大震度7の強い揺れが想定される。



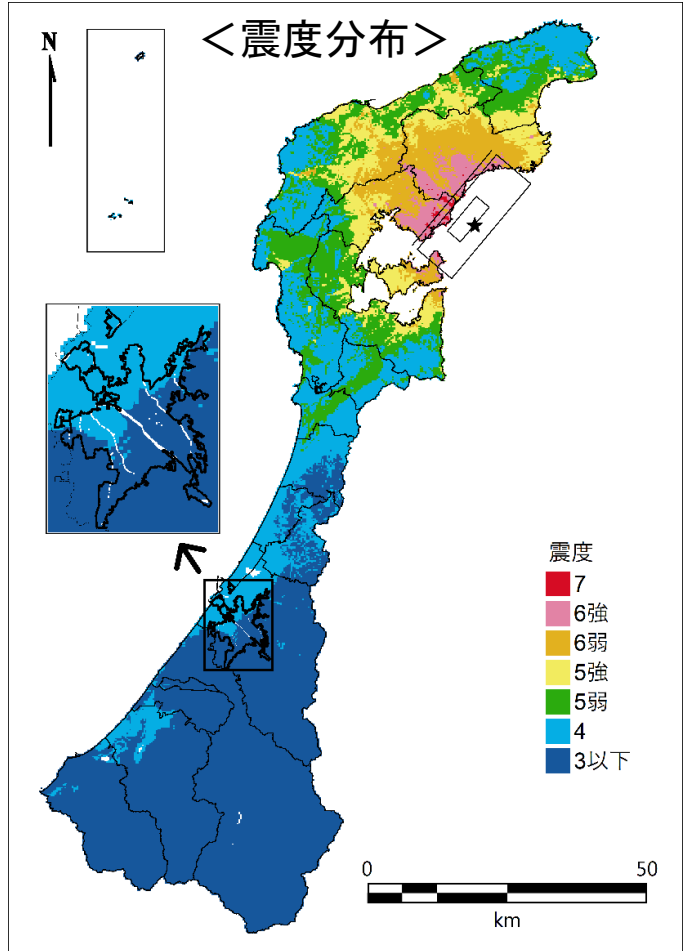
建物被害（全壊・全焼）		38,148	棟
要因別	揺れ	33,302	棟
	液状化	3,847	棟
	急傾斜地崩壊	55	棟
	地震火災	943	棟
建物被害（半壊）		33,839	棟
人的被害（死者）		1,782	人
要因別	建物倒壊	1,688	人
	急傾斜地崩壊	7	人
	地震火災	31	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒・屋内収容物移動・転倒	55	人
人的被害（負傷者）		6,866	人
災害関連死		176～352	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	263,401	人
	下水道（支障人口）	198,485	人
	電力（停電戸数）	144,300	戸
	固定通信（不通回線）	104,353	回線
	携帯通信（停電基地局率）	29.5	%
交通施設	道路被害	63	箇所
	橋梁被害	111	箇所
避難者（1週間後）		88,059	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

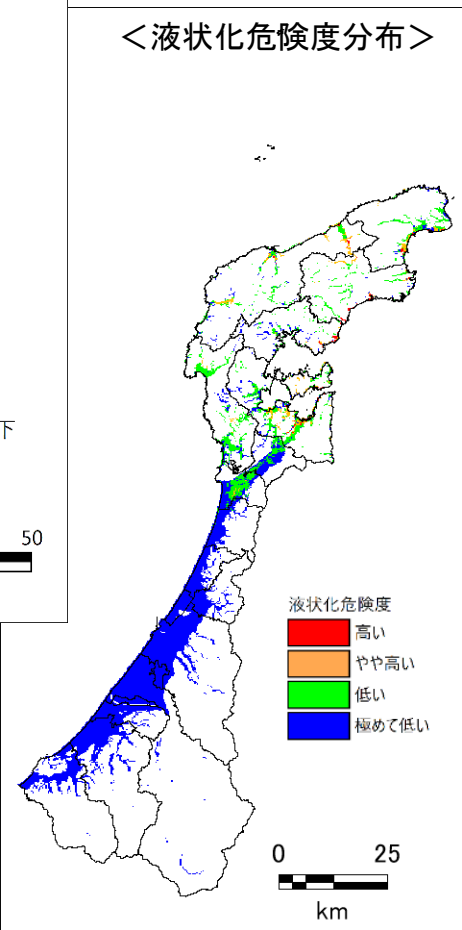
⑤ 福井平野東縁断層帯主部の主な被害予測結果（北に震源）

想定項目（振枠）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	1,380	0	12,317	0	0	22,218	33	43	339	1,702	8	25	60	17	0	6	0	0	0
要因別	揺れ	棟	2	0	10,722	0	0	21,300	0	0	83	1,189	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	液状化	棟	1,379	0	1,218	0	0	356	33	43	255	454	8	19	60	17	0	6	0	0	0
	急傾斜地崩壊	棟	0	0	9	0	0	45	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	棟	0	0	367	0	0	517	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建物被害（半壊）		棟	8,530	1	11,609	0	0	7,474	148	231	1,532	3,626	75	140	314	131	0	28	0	0	0
人的被害（死者）		人	1	0	638	0	0	1,065	0	0	5	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要因別	建物倒壊	人	0	0	610	0	0	1,003	0	0	5	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	急傾斜地崩壊	人	0	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地震火災	人	0	0	9	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	1	0	19	0	0	33	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人的被害（負傷者）		人	29	0	2,686	0	0	3,685	0	2	54	399	4	5	1	1	0	0	0	0	0
災害関連死		人	16～32	0～0	66～132	0～0	0～0	83～166	0～0	0～1	4～8	11～23	0～1	0～1	1～2	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	19,012	1	110,279	1	0	66,842	10	406	9,568	54,078	1,521	699	319	637	0	27	0	0	0
	下水道（支障人口）	人	26,023	7	74,430	14	0	37,078	64	1,831	6,524	48,976	3,459	32	0	5	2	37	0	0	0
	電力（停電戸数）	戸	45,571	6	36,198	6	0	23,910	42	1,359	14,928	12,088	5,959	777	1,125	2,229	1	102	0	0	0
	固定通信（不通回線）	回線	32,907	6	26,038	6	0	18,611	43	1,096	10,976	8,374	3,639	548	733	1,281	1	93	0	0	0
	携帯通信（停電基地局率）	%	22.0%	0.0%	88.1%	0.1%	0.0%	95.2%	0.5%	10.8%	36.5%	66.7%	22.7%	40.6%	8.4%	20.6%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
交通施設	道路被害	箇所	8	0	12	0	0	28	0	1	8	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	橋梁被害	箇所	39	0	16	0	0	16	0	6	18	5	0	3	1	7	0	0	0	0	0
避難者（1週間後）		人	6,749	0	32,932	0	0	39,814	76	119	1,917	5,667	161	146	357	103	0	18	0	0	0



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

○ 震源に近い能登北部地域で震度6強以上と揺れが大きくなり、七尾市、穴水町、能登町の一部の地域で最大震度7の強い揺れが想定される。



建物被害（全壊・全焼）		5,052	棟
要因別	揺れ	3,061	棟
	液状化	1,971	棟
	急傾斜地崩壊	12	棟
	地震火災	7	棟
建物被害（半壊）		8,314	棟
人的被害（死者）		196	人
要因別	建物倒壊	190	人
	急傾斜地崩壊	1	人
	地震火災	0	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	5	人
人的被害（負傷者）		885	人
災害関連死		17～34	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	32,895	人
	下水道（支障人口）	8,911	人
	電力（停電戸数）	21,058	戸
	固定通信（不通回線）	21,610	回線
	携帯通信（停波基地局率）	6.1	%
交通施設	道路被害	26	箇所
	橋梁被害	82	箇所
避難者（1週間後）		8,472	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

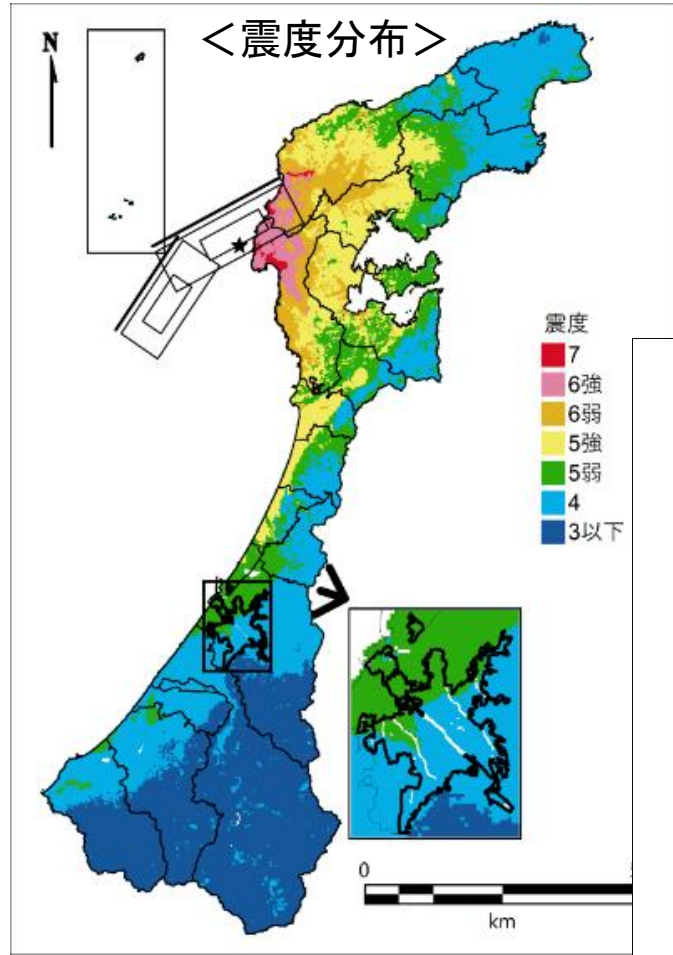
⑥ 能登海岸活動セグメントの主な被害予測結果

想定項目（抜粋）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	0	1,105	0	120	494	0	108	0	0	0	0	0	0	0	266	3	34	805	2,116
要因別	揺れ	棟	0	418	0	10	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	741	1,799
	液状化	棟	0	687	0	110	401	0	108	0	0	0	0	0	0	0	266	3	34	61	302
	急傾斜地崩壊	棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9
	地震火災	棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	建物被害（半壊）	棟	0	2,670	0	429	1,280	0	410	0	0	0	0	0	0	0	894	14	140	488	1,990
人的被害（死者）		人	0	27	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	115
要因別	建物倒壊	人	0	26	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	112
	急傾斜地崩壊	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	地震火災	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	人的被害（負傷者）	人	0	141	0	11	57	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	172	502
災害関連死		人	0～0	5～9	0～0	1～2	1～2	0～0	1～1	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	1～2	0～0	0～0	3～6	6～13
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	0	7,498	0	2,436	731	0	78	0	0	0	0	0	0	0	204	6	89	6,555	15,297
	下水道（支障人口）	人	0	2,110	0	1,202	162	0	596	0	0	0	0	0	0	0	562	13	0	3,335	930
	電力（停電戸数）	戸	0	7,256	0	3,598	1,284	0	317	0	0	0	0	0	0	0	718	29	340	2,536	4,980
	固定通信（不通回線）	回線	0	7,518	0	3,963	1,111	0	327	0	0	0	0	0	0	0	514	26	303	2,701	5,148
	携帯通信（停電地域率）	%	0.0%	35.8%	0.0%	35.3%	23.3%	0.0%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%	0.6%	5.6%	77.6%	77.6%
交通施設	道路被害	箇所	0	6	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	8
	橋梁被害	箇所	0	25	0	18	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	14	0	2	8	7
避難者（1週間後）		人	0	2,181	0	465	417	0	239	0	0	0	0	0	0	0	342	8	51	1,524	3,245

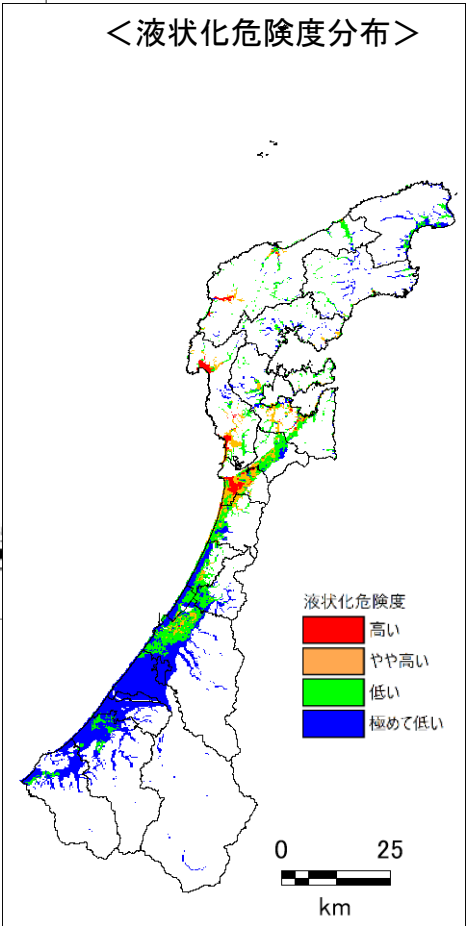
参考

⑦ 門前断層帯の主な被害予測結果（東下部に震源）

○ 震源に近い能登北部地域および能登南部地域で震度6強以上と揺れが大きくなり、輪島市と志賀町の一部の地域で最大震度7の強い揺れが想定される。



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要



建物被害（全壊・全焼）		9,444	棟
要因別	揺れ	4,904	棟
	液状化	4,466	棟
	急傾斜地崩壊	28	棟
	地震火災	46	棟
建物被害（半壊）		18,476	棟
人的被害（死者）		309	人
要因別	建物倒壊	298	人
	急傾斜地崩壊	2	人
	地震火災	1	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	8	人
人的被害（負傷者）		1,253	人
災害関連死		37～75	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	59,528	人
	下水道（支障人口）	54,344	人
	電力（停電戸数）	42,698	戸
	固定通信（不通回線）	37,320	回線
	携帯通信（停電基地局率）	18.8	%
交通施設	道路被害	43	箇所
	橋梁被害	125	箇所
避難者（1週間後）		17,211	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

⑦ 門前断層帯の主な被害予測結果（東下部に震源）

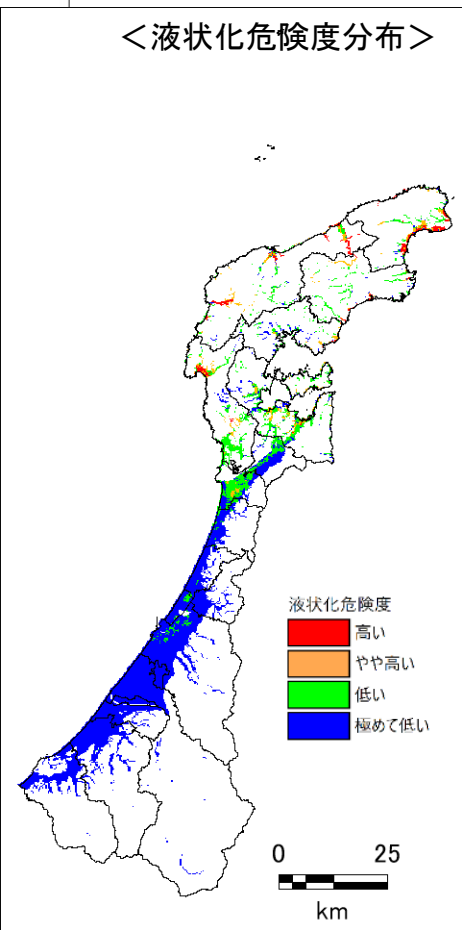
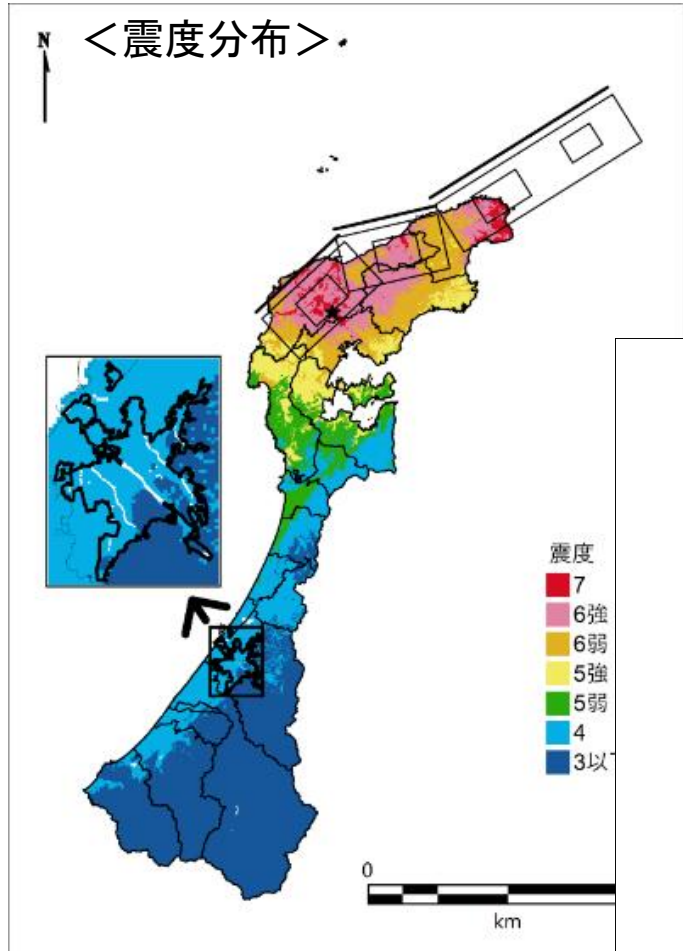
想定項目（振砕）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	629	780	44	1,084	41	13	757	206	1	1	0	0	87	15	4,732	213	509	66	263
要因別	揺れ	棟	0	45	0	972	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3,877	0	0	6	0
	液状化	棟	629	735	44	92	41	13	753	206	1	1	0	0	87	15	802	213	509	60	263
	急傾斜地崩壊	棟	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0
	地震火災	棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0
建物被害（半壊）		棟	3,896	2,593	244	953	156	73	2,522	902	9	11	0	0	463	98	3,569	731	1,410	195	651
人的被害（死者）		人	0	3	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	242	0	0	0	0
要因別	建物倒壊	人	0	3	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	236	0	0	0	0
	急傾斜地崩壊	人	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	地震火災	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
人的被害（負傷者）		人	6	42	0	255	0	0	8	5	0	0	0	0	1	1	923	2	2	7	0
災害関連死		人	7～14	4～7	0～1	4～9	0～0	0～0	4～8	1～3	0～0	0～0	0～0	0～0	1～3	0～0	11～22	1～3	2～3	1～1	1～2
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	2,099	5,932	37	18,804	21	26	3,089	1,454	16	13	0	0	416	463	19,157	871	538	6,510	81
	下水道（支障人口）	人	9,854	1,950	329	19,252	22	139	1,012	1,958	129	149	0	0	0	5	15,943	216	0	3,335	52
	電力（停電戸数）	戸	9,264	7,286	166	5,201	94	118	3,780	3,240	108	53	0	0	1,441	1,684	5,460	1,345	1,384	1,728	346
	固定通信（不通回線）	回線	6,690	7,523	119	5,727	81	92	3,904	2,614	79	37	0	0	939	968	3,908	1,224	1,231	1,829	355
	携帯通信（停電地域比率）	%	8.7%	58.8%	0.8%	75.9%	3.4%	0.9%	71.9%	45.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	20.4%	28.7%	92.9%	51.5%	40.2%	77.5%	10.4%
交通施設	道路被害	箇所	2	8	0	7	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	11	2	1	3	1
	橋梁被害	箇所	15	25	0	18	2	0	8	7	0	0	0	0	2	7	20	7	2	8	4
避難者（1週間後）		人	3,020	1,683	132	2,235	38	34	1,600	527	5	4	0	0	521	80	5,342	573	675	367	373

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載 ※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

⑧ 能登半島北岸断層帯の主な被害予測結果（南下部に震源）

○ 震源に近い能登北部地域の広い範囲で震度6強以上と揺れが大きくなり、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町で最大震度7の強い揺れが想定される。



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

建物被害（全壊・全焼）		23,956	棟
要因別	揺れ	21,037	棟
	液状化	2,537	棟
	急傾斜地崩壊	88	棟
	地震火災	294	棟
建物被害（半壊）		13,636	棟
人的被害（死者）		1,286	人
要因別	建物倒壊	1,239	人
	急傾斜地崩壊	12	人
	地震火災	4	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	30	人
人的被害（負傷者）		4,595	人
災害関連死		62～125	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	61,309	人
	下水道（支障人口）	28,688	人
	電力（停電戸数）	31,155	戸
	固定通信（不通回線）	31,176	回線
	携帯通信（停電基地局率）	14.7	%
交通施設	道路被害	51	箇所
	橋梁被害	92	箇所
避難者（1週間後）		28,516	人

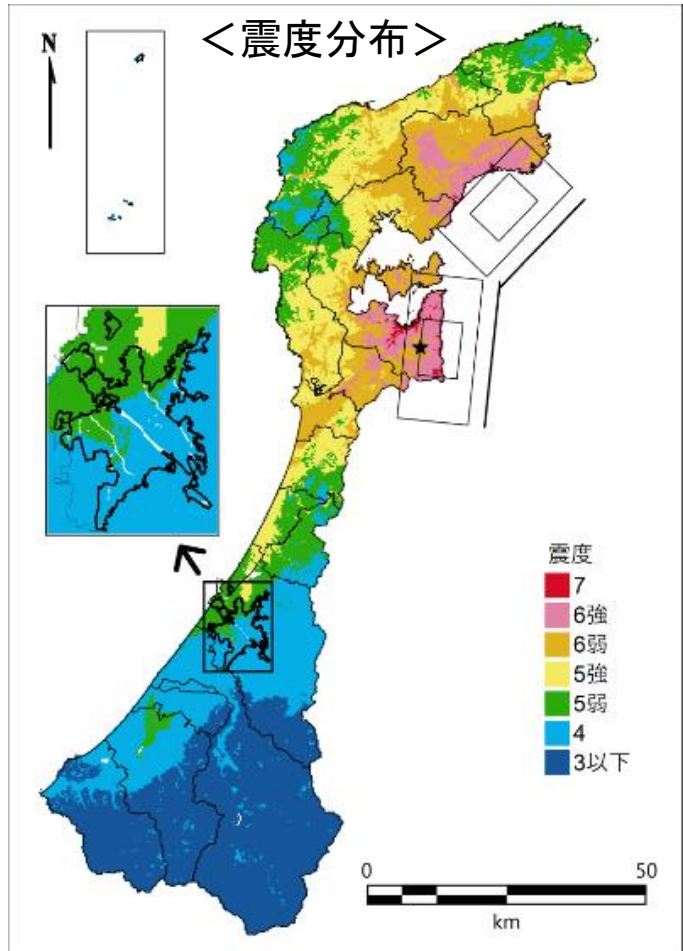
※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

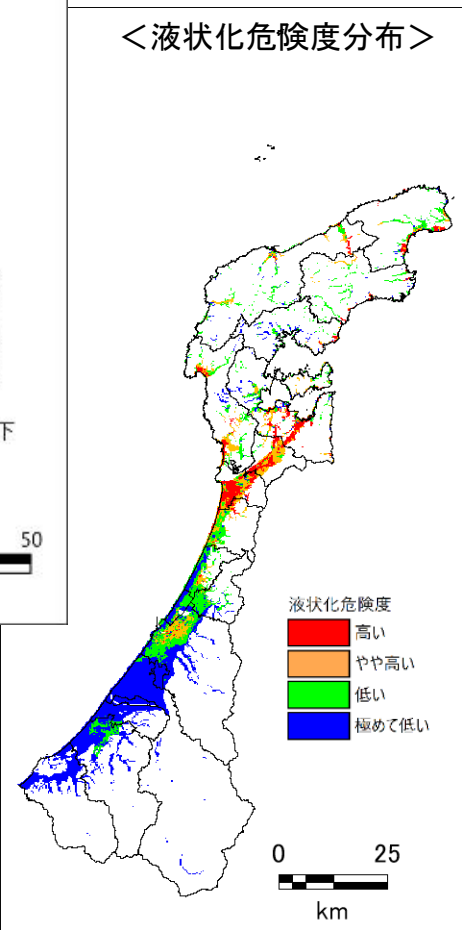
⑧ 能登半島北岸断層帯の主な被害予測結果（南下部に震源）

想定項目（振砕）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	15	846	0	8,499	11,463	0	167	1	0	0	0	0	0	1	691	28	107	678	1,460
要因別	揺れ	棟	0	11	0	8,315	10,936	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	609	1,123
	液状化	棟	15	621	0	129	513	0	167	1	0	0	0	0	0	1	648	28	51	61	302
	急傾斜地崩壊	棟	0	0	0	55	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	14
	地震火災	棟	0	213	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	3	22
建物被害（半壊）		棟	106	2,082	0	2,634	3,310	0	654	5	0	0	0	0	0	6	2,117	105	194	736	1,688
人的被害（死者）		人	0	4	0	501	663	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	39	75
要因別	建物倒壊	人	0	1	0	476	651	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	38	72
	急傾斜地崩壊	人	0	0	0	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	地震火災	人	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	0	0	0	16	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
人的被害（負傷者）		人	0	13	0	1,729	2,284	0	1	0	0	0	0	0	0	0	34	0	1	189	345
災害関連死		人	0～0	3～7	0～0	31～61	18～36	0～0	1～2	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	0～0	2～4	0～0	0～1	3～6	5～9
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	0	3,326	0	21,769	12,406	0	240	13	0	0	0	0	0	0	1,489	49	75	6,645	15,297
	下水道（支障人口）	人	0	1,441	0	19,252	1,809	0	799	182	0	0	0	0	0	0	1,089	60	0	3,335	720
	電力（停電戸数）	戸	0	5,447	0	9,636	5,221	0	839	55	0	0	0	0	0	0	2,317	182	287	2,671	4,499
	固定通信（不通回線）	回線	0	5,625	0	10,611	4,504	0	866	44	0	0	0	0	0	0	1,658	166	256	2,827	4,619
	携帯通信（停波基地局率）	%	0.0%	46.4%	0.0%	99.7%	99.7%	0.0%	19.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.5%	8.1%	9.2%	96.5%	90.8%
交通施設	道路被害	箇所	0	6	0	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	7
	橋梁被害	箇所	0	24	0	18	9	0	4	0	0	0	0	0	0	0	17	3	2	8	7
避難者（1週間後）		人	77	1,438	0	13,708	8,012	0	372	2	0	0	0	0	0	3	864	77	122	1,517	2,323

⑨ 七尾湾東方断層帯の主な被害予測結果（南下部に震源）



○ 震源に近い能登北部地域と能登南部地域の広い範囲で震度6強以上と揺れが大きくなり、七尾市、穴水町、能登町の一部の地域では最大震度7の強い揺れが想定される。



※液状化危険度はあくまでも予測結果であることに留意が必要

建物被害（全壊・全焼）		29,659	棟
要因別	揺れ	23,428	棟
	液状化	5,889	棟
	急傾斜地崩壊	79	棟
	地震火災	263	棟
建物被害（半壊）		32,342	棟
人的被害（死者）		1,434	人
要因別	建物倒壊	1,387	人
	急傾斜地崩壊	8	人
	地震火災	7	人
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	32	人
人的被害（負傷者）		5,810	人
災害関連死		105～210	人
ライフライン被害	上水道（断水人口）	183,835	人
	下水道（支障人口）	94,993	人
	電力（停電戸数）	74,238	戸
	固定通信（不通回線）	67,200	回線
	携帯通信（停波基地局率）	32.0	%
交通施設	道路被害	66	箇所
	橋梁被害	157	箇所
避難者（1週間後）		50,173	人

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載
※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり

参考

⑨ 七尾湾東方断層帯の主な被害予測結果（南下部に震源）

想定項目（抜粋）		単位	金沢市	七尾市	小松市	輪島市	珠洲市	加賀市	羽咋市	かほく市	白山市	能美市	野々市市	川北町	津幡町	内灘町	志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町
建物被害(全壊・全焼)		棟	920	15,536	84	178	1,296	0	1,302	272	1	3	0	0	102	25	1,002	318	3,950	465	4,204
要因別	揺れ	棟	0	14,491	0	56	776	0	455	1	0	0	0	0	0	0	209	45	3,118	403	3,872
	液状化	棟	920	848	84	117	504	0	847	271	1	3	0	0	102	25	793	272	740	61	302
	急傾斜地崩壊	棟	0	31	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	1	17
	地震火災	棟	0	166	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	13
建物被害（半壊）		棟	5,655	7,266	444	633	2,213	0	3,437	1,182	8	23	0	0	534	160	2,864	1,030	3,871	411	2,610
人的被害（死者）		人	0	847	0	4	51	0	31	0	0	0	0	0	0	0	14	3	213	26	244
要因別	建物倒壊	人	0	817	0	3	51	0	30	0	0	0	0	0	0	0	14	3	206	26	237
	急傾斜地崩壊	人	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	地震火災	人	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	ブロック塀・自動販売機等転倒、屋内収容物移動・転倒	人	0	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	5
人的被害（負傷者）		人	7	3,057	1	48	298	0	230	6	0	0	0	0	2	2	124	35	950	106	945
災害関連死		人	11～21	52～104	1～1	2～4	2～5	0～0	6～13	2～3	0～0	0～0	0～0	0～0	1～3	0～1	3～6	2～4	10～21	2～4	12～23
ライフライン被害	上水道（断水人口）	人	3,603	51,334	125	19,492	12,406	0	22,106	2,503	17	18	0	0	503	672	19,157	12,587	17,468	6,548	15,297
	下水道（支障人口）	人	10,348	24,698	990	19,252	377	0	15,802	2,200	105	182	0	0	0	5	15,943	351	7	3,335	1,399
	電力（停電戸数）	戸	13,708	18,097	544	5,525	3,020	0	5,653	4,114	73	65	0	0	1,722	2,313	3,747	2,350	5,310	2,277	5,720
	固定通信（不通回線）	回線	9,898	18,687	389	6,084	2,605	0	5,838	3,320	54	45	0	0	1,122	1,330	2,682	2,139	4,724	2,410	5,873
	携帯通信（停電基地局）	%	12.8%	98.8%	2.6%	79.0%	79.5%	0.0%	91.2%	54.9%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	24.1%	38.2%	75.3%	78.0%	98.3%	90.6%	98.7%
交通施設	道路被害	箇所	3	20	0	7	5	0	3	3	0	0	0	0	1	0	6	3	3	3	8
	橋梁被害	箇所	27	25	9	18	9	0	8	7	0	1	0	0	2	7	20	7	2	8	7
避難者（1週間後）		人	4,402	24,561	246	963	1,168	0	3,163	764	4	10	0	0	604	126	1,389	862	5,192	944	5,776

※建物被害・災害関連死・避難者は冬・夕18時・強風、人的被害・ライフライン被害は冬・朝5時・強風の結果を記載 ※小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合あり